

# リアリスティック一発合格松本基礎講座 短期合格者の足跡

短期合格者のうちの一部の方に合格体験記を執筆していただきました。是非ご一読ください。

## 「これだけやれば受かる！」というイメージを手助けしてくれたのが辰巳と松本先生

令和6年度合格者 R. Yさん（受験回数1回） …… P. 2

## テキストの色分けは勉強を進めていく中でとても助かった

令和6年度合格者 N. Oさん（受験回数1回） …… P. 6

## 個人的に工夫したことはほとんどなく、松本先生のおっしゃることを素直に実行

令和6年度合格者 N. Wさん（受験回数1回） …… P. 10

## 本気の熱量を込めて講義される松本先生の姿に憧れ、その気持ちで勉強を続けた

令和6年度合格者 H. Tさん（受験回数1回） …… P. 14

## 松本先生の講義、テキストと相性があったため、受かることができた

令和6年度合格者 S. Sさん（受験回数1回） …… P. 18

## 松本先生の記述式採点基準を見て、この人を選んだのは間違いじゃなかった実感

令和6年度合格者 T. Nさん（受験回数1回） …… P. 22

## お試し受験なしの一発合格！松本先生の指示に従いテキスト以外に手を広げず

令和5年度合格者 M. Kさん（受験回数1回） …… P. 24

## フルタイムで働きながら総合13位で一発合格！

令和5年度合格者 Y. Tさん（受験回数1回） …… P. 28

## 週に6日働きながらの挑戦で一発合格！

令和5年度合格者 Y. Kさん（受験回数1回） …… P. 32

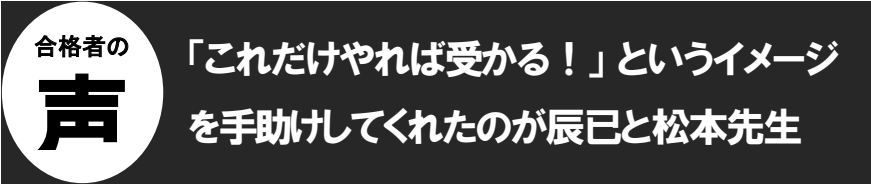
## 総合順位17位で一発合格！

令和4年度合格者 I. Hさん（受験回数1回） …… P. 34

令和7年度合格者の合格体験記は令和7年度司法書士試験合格体験記『合格の形』をご覧ください。

リアリスティック一発合格松本基礎講座  
の詳細につきましては、ホームページを  
ご覧ください。





令和 6 年度合格者 R. Y さん  
受験回数 1 回

## はじめに

中学生くらいの頃に、「ミナミの帝王」という漫画を読み、法律に興味を持ちました。その後、法学部に進学し、そのとき所属していた部活動の同期から司法書士を目指しているという話を聞いて、司法書士という資格を知りました。そこから、司法書士という資格に興味を持ったものの、合格率の低さや平均受験回数を知ると、なかなか受験することへの一歩を踏み出せずにいました。社会人となり数年、仕事に慣れてきたこともあり、自分の将来の選択肢を広げるために、興味のある司法書士試験を受験することに決めました。

2023 年 10 月から 2024 年受験対策リアリステック一発合格松本基礎講座を受講しました。松本講座にした理由は、YouTube などで松本先生の講座に対する熱量などを知っていたからです。また、試験まで残り 1 年を切っていたのでロングスタディコースと迷いましたが、取り寄せた合格体験記を読み、「なんとか間に合うのではないかな」と思い、2024 年合格目標の講座にしました。年内は、週約 6 コマの視聴をし、追いつくのに必死でした。勉強時間は平日 3~4 時間、休日 10 時間以上の週平均 35 時間を目標にし、年内に主要 4 科目を終わらせようと思いました。実際、民法は 11 月中旬、不動産登記法は 12 月中旬、会社法・商業登記法は年をまたいで 1 月中旬に講座の視聴を終えました。その間、追っかけ復習は、民法が 1 周できたのみです。年明け後は、週約 4 コマを視聴しなんとか 4 月下旬に講義を聞き終えました。途中でロングスタディコースの方が良かったかなと思うこともありましたが、昨年度の合格者の方に自分と同様のペースの方がいらっしまったので、それが非常に心の支えになっていました。

## 私のとった勉強法

### 択一対策について

択一については、とにかく基準点を超えなければなら

ないし、上乘せがないと勝負にならないと思っていたので、捨て科目は作らなかったです。講義を聴いた後は、まず過去問を解きました。過去問については、指定された過去問を全て（昭和の肢を除く）解きました。松本講座では、専用のブログにその過去問に対応するテキストの該当ページと飛ばしてもよい肢が載っており、すぐにテキストの該当ページに戻ることができ効率的に勉強できました。また、飛ばしてもよい肢については二度と見ないようにしていました。過去問には、問いた日付と解くことができたかどうか（○：解けた、△：解けたが悩んだ（悩んだ肢の番号も記載）×：解けなかった）を記録し、直前期の復習に活用しました。過去問の解説については、テキストを読んでも理解が追いつかなかった場合にのみ読んでいました。テキスト単体でのアウトプットについては、あまりできていなかったです。復習方法としては、1 コマずつテキストのページを読み、該当の過去問を解き、テキストを確認するといった方法を探っていました。過去問を解いて、出題のされ方に慣れることと該当のテキストのページを想起できることが大事だと思っていたからです。情報の一元化を図るため、解いたときに気づいたことや、注意すべき点は全て過去問の解説のページや、テキストに書き込んでいました。最初のほうの講義で、松本先生から、初めて過去問を解く場合でも、問題文の大事だと思うところに線を引くようにと指示があり、始めは「再度解くときにヒントになるんじゃないかな」と思って、線を引くのにためらいがありましたが、実際、2 回目以降解くときに気にならなかったです。むしろ、自分が引いた箇所とテキストに色付けをした箇所を照らし合わせることで、問題文の中で気を付けるべきところや見落としていたところが明らかになるので、線を引くことにためらわなくても大丈夫です。

テキストは、回したのが多い単元（例えば、不動産登記法の抵当権や根抵当権）で 10 周ほど、少ない単元で 2 周はしました。確実に暗記するように指示があった箇所については、コピーをし、それをラミネー

トしていつも持ち歩くようにしていました。C ランクの知識については、飛ばしていました。

苦手意識があった科目は、民事訴訟法と刑法でした。民事訴訟法については、用語の意味を確実に理解することと、条文を押さえることを心がけていました。刑法については、あまり深入りをせずに、直前の本試験出題予想会と A ランクの知識を中心に勉強することにとどめました。勉強の中で、特に条文を見るようにしていたのは、民法の総則・家族法、民事訴訟法・民事執行法・民事保全法、憲法の統治です。試験日前の 1 週間で全科目のテキスト 1 周することが望ましいと分かっていたので、余裕を持って、試験日前の 10 日間でそれを実行しようと思いました。結果としては、民法、会社法・商業登記法については途中までしかみることができず、それ以外は回し切ったというものでした。完璧とまでは言えないですが、大方の知識を確認することができたので、試験中も「見たことあるな〜」という印象を持つ問題が多く、スムーズに解き進めることができました。

### 記述対策について

とにかく 1 周は、講義のペースどおりに早く触れた方がいいです。記述の知識が、択一の知識の補強にもなるからです。講義で取り扱う問題をまず 1 問を解き、解説を聴き、次の問題に取り組むという流れで進めました。講義では取り扱わなかった問題で、解くように指定された問題については、講義で聴いたことの確認として最後にまとめて解いていました。本試験までに、基本編は 2 回解き、講座での専用教材は講義に合わせて 1 回解いたのみで、あとは論点を確認することしかできなかったです。

記述で特に必要なことは、ひな形の暗記だと思います。ひな形が反射的に思い出せるようになると得点が安定します。6 月以降毎日、通勤時間の約 1 時間を利用し、音声データに合わせてシャドーイングをしていました。速度は、主に標準のものを使っていました。気になる箇所や、添付理由が思い出せない箇所は後々テキストで確認していました。最終的には、申請例のタイトルを聴いて、添付情報まで何も見ずに言うことができるレベルでした。ひな形の暗記はこつこつやることをおすすめします。

記述は、択一と違って間違えたところをノートにまとめることをおすすめします。申請人の書き方や、なぜ枠ずれしたのかといったことをまとめておくで試験前に見返すのに便利ですし、同じミスで点を落とすリスクを減らすことができると思います。

### 答練・模試編

受けることができるなら受けた方がいいです。試験中の時間配分や自分の学習到達度が分かるからです。

また答練・模試といった実力を試す場があるとそれに向けて、「1 問でも多く正解しよう」という気持ちや「この単元の問題はできるようにしよう」という気持ちになるからです。答練・模試で思うように得点できなくても過度に気にしなくても良いと思います。伸びしろがあるということですから。答練・模試の記述問題の復習については、解いた後、コピーを取り、正しい解答を書き写し、その根拠や考え方を確認していました。択一問題の復習については、その日かその次の日までに必ず終わらせるようにして、復習に時間をかけすぎないようにしていました。答練・模試については、すべて自宅受験でしたが、何回かは本試験の練習のために最寄りの図書館で時間どおりに受けるといったことをしていました。

### 本試験当日(午前)

試験会場には何回か行ったことがあったので、道に迷うことはなかったです。試験が始まって、民法、会社法、憲法、刑法の順で解き進めました。時間に余裕があったので、全肢検討しました。設問を読み間違えることを避けるために、設問に対しても○×を付けました。悩ましい問題が少なかったのも、スムーズに解くことができ、焦りなどはなく落ち着いて試験に臨むことができました。見直しは、制限時間いっぱいまでしました。

### 本試験当日(午後)

休み時間におにぎり 2 つと栄養ドリンクを体内に入れました。リラックスすることが大事だと聞いていたので、食後はベンチで横になったり、ストレッチをしたりしていました。午後の試験は、時間との戦いです。供託法、司法書士法、民事保全法、民事執行法、不動産登記法、商業登記法、民事訴訟法、不動産登記法記述、商業登記法記述の順で解きました。短い文章の肢をまず読み解答を絞ってから次の肢に目を運びます。運が良いことに、大体 2 肢読むと答えを導出できるものが多く、50 分もかからずに択一を解き終えました。不動産登記法記述に移ります。問題全体に目を通して、分量が多いなと思いました。答案構成までに 35~40 分かかりました。解答を答案用紙に書こうとしたところ、「受かるかもしれない」という緊張と疲労などが相まって手が震え始めました。解答用紙にあまりに上手く字が書くことができない状態であったので、書くのを一旦やめて、商業登記法の記述に進みました。こちらは、30~35 分で答案構成ができました。登記できない事項について、おそらくこれだろうなというものがありました。確信を持てなかったもので、登記の事由には一応それを書き、登記すべき事

項についてはあえてその内容を書きませんでした。時間短縮と得点最大化のためです。解答用紙に書いていくための時間は十分にあったので、慎重に書いていきました。書き終えた後は、付随的な問いの検討と択一で気になった箇所の見直しを行いました。

**最後に**

範囲が広い、記憶した次から忘れていく、思うように学習が進まないといったことから勉強が嫌になったり手につかなくなったりすることがしばしばあると思います。また、周りの人と比べて、自分が遅れているのではないかという感覚になり焦ることもあると思います。この試験は、最後まで自分との戦いだと思います。どんなにつまずこうと、どんなに進むのがゆっくりであろうと、「これだけやれば受かる！」といった合格へのイメージを自分の中で強く持つことが大切です。私にとっては、そのイメージの手助けをしてくれたのが辰巳ないし松本先生でした。合格への思いというのは、「受かって早く独立したい」といった正の感情や、「こんなに大変な試験勉強をもうしたくはない」といった負の感情の様々あると思います。どのような思いも自分を突き動かす原動力となるものです。自分が抱く合格への思いと合格へのイメージを大切に、歩を進めてください。

合格者の  
声

# テキストの色分けは勉強を進めていく中でとても助かった



令和 6 年度合格者 N. O.さん  
受験回数 1 回

## 司法書士の受験を決意した経緯

大学卒業後、民間企業で営業職をしていましたが、自分の性格的に 1 から何かを生み出す仕事より、専門知識を活かして人の役に立てる仕事の方が向いているだろうと感じ、何か自分に合った資格はないか探し始めました。その中で、以前から相続について漠然と興味を持っていたこともあり、司法書士 or 税理士の二択まで絞られました。税理士は文系の私には向いてなさそう、かつ法学部出身（とはいえ、授業にもほぼ出席せず趣味とバイトに明け暮れた不真面目学生だったので、知識レベルはほぼ初学者に近い）なので、司法書士の方が現実的だと思い、司法書士を志しました。当初は兼業での合格を目指していましたが、仕事と勉強を両立出来るだけのキャパシティが私にはないと感じ、早々に専業で一発合格目標に切り替えました。落ちたら再度兼業でもう 1 年、それでもだめなら潔く諦める、このようにタイムリミットを設けて目指すことにしました。

## 勉強法全般

### 択一対策

テキストの見出しだけで書かれている内容を思い出すというやり方で、ひたすらテキストを回しました。模試や本試験の際、「この表の右側にこれが書かれていたから…」とテキストのイメージを頭に思い浮かべることも出来たのでおすすめです。また、午後はとにかくタイムアタックなので、直前期は午後択一の過去問を中心に回し続けました。午後択一のマイナー科目は 1 問 1 分以内、不登法と商登法は 1 問 1 分半以内で回せるように、常にタイマーで時間を測りながら問題を解き続けました。最初この目標時間を松本先生から聞いたときは自分には無理だ…と諦めそうになりましたが、とにかく無心で毎週解き続けると、「この文言がきたらこれが聞かれるな」とパターンが見えてくるようになりました。また、過去問が一問一答形式で出題されるアプリも全科目分購入し、移動中はもち

ろん、髪を乾かしている間などとにかくスキマ時間を見つけては解くようにしていました。

### 記述対策

私は直前期の模試でも 70 点満点中 23 点を叩き出してしまうほど、不登法の記述が苦手だったので、直前期に松本先生に相談をしました。先生からは、①間違いノートを作ること。②いろいろな問題に手を出すのではなく、既に解いたことのある問題の中で間違えたものを何回も解いてパターンを覚えること。この二点のアドバイスをいただきました。

①については、2 回以上間違えた問題について、間違えたポイントを記録していきました。不登法については前のページから、商登法については後ろのページから、ミニサイズのノート 1 冊に書き、どこにでも持ち歩けるようにしました。模試や本試験の始まる直前まで見直すことが出来たので良かったです。②については、記述の講義で扱った問題、過去の模試、答練で出題されたもの、過去問 10 年分を最低でも 3 周は解いていました。

## インプット段階

### 講座の受講に至った経緯

周りの受験生から「選択肢が限られる地方の予備校の対面講義を受けるよりは自分に合った選択が可能な通信講座の方が良い」とアドバイスを受けていたので、通信で受講できる講義を探していました。松本先生の講座を受講することにしたのは、業界で有名な先生方の出版されたテキストを何冊か読んだ中で一番頭に入ってやすいなと感じたことと、YouTube で視聴した体験講義の内容もとても分かりやすかったためです。決して安くはない受講料を払う上で、先生との相性を一番重視しました。

## 講座活用法

私は 2023 年 5 月の本講義から受講をし、まずは松本先生に言われた通り、7 月のお試し受験でその時までに習った範囲で 9 割正解することを目標にしてい

ました。ただ、6 月までは兼業であったため、その頃は勉強時間も思うように確保できず、講義に追いつくのに必死でした。結果的にお試し受験で目標達成は出来ましたが、自分にとっては奇跡に近いような感覚でした。とはいえ、目標を達成したことでこの講義で進めて間違いないと、確かな自信になったのも事実です。7 月より専業受験生となりましたが、最初の頃は新卒から続いていた社会人生活から解放された嬉しさで、勉強時間より遊びや趣味を優先してしていました。毎日の勉強時間をアプリで管理していましたが、9 月までは月に 125 時間（1 日平均 4 時間）しか勉強しておらず、専業受験生としては、恥ずかしくなるくらいの勉強量でした。そこで「まずは 1 カ月無理をする、そうすることで勉強習慣が身につく」という松本先生の教えに従った結果、徐々に勉強習慣が付き始め 10 月は 173 時間、11 月は 240 時間と勉強にあてる時間が増えていきました。

### 受講してよかったと思うこと、講師のよかった点

これは松本講座受講生の皆さんがおっしゃることだと思いますが、テキストの色分けは勉強を進めていく中でとても助かりました。特にテキストを何回も回さなければいけない直前期には、とてもじゃないですが膨大な量のテキストを 1 ページずつ読んでいる時間はありません。その時に最終的には赤と緑で引いたところを回せば良かったので、テキストの周回スピードをあげることができ有難かったです。また、こちらからの質問に対する松本先生のレスポンスの速さに大変助けられました。どうしても通信講座の受講生はリアルタイムで質問出来ないという欠点がありますが、無料の質問サービスを使って分からないことを聞くと、早ければ数時間後には返答が来るので、対面講義の受講生と大差なく疑問点を解消することが出来ました。毎日ご多忙の中、ここまで即レスしてくださる先生もいらっしゃらないと思っています。

## アウトプット段階

### 答練、模試

答練は辰巳のバックで受講し、模試は他校のものも含めて 12 月に 1 回、3 月に 3 回、直前期に 6 回受験しました。辰巳の答練は午前科目、午後科目を隔週で受験するので、その週に受ける科目に絞って集中的に勉強出来る点が良かったです。本試験当日のルーティーンをいくつか試すためにも、複数回受験することをおすすめします。12 月の模試の時点ではまだ記述の講義も受けていなかったので模試の受験自体迷いましたが、直前期の記述対策の一教材として使うことが出来るので、もし余裕があれば受験される方が良いかと思います。12 月の模試では E 判定でした。ただ、全て

の講義を受けていない状態であったため、必要以上に判定を気にすることはせずに、直前期の模試では S 判定を取れるようにと年末に気合を入れ直すことの出来る良い機会だったと思います。

## 合格に至るまでの出来事

### 体力作りについて

一日中机に向かって勉強だけをする生活を続けると、想像以上に体力や筋力が衰えます。最初の頃は模試の翌日にベッドから起き上がることができず、布団の中で択一アプリを回すので精一杯で寝込んでしまう日もありました。そこで、夕食後に 1 日 30 分程度近所を散歩する習慣をつけました。音楽も聴かずに無心で歩くことで、体力がつくだけでなく、脳内での考え事も整理され、スッキリした気持ちで勉強に臨むことが出来ました。

### 生活リズムについて

直前期には試験当日のスケジュールを意識した食事管理も行いました。起床して約 3 時間後に脳の冴えがピークに達するので、毎日遅くても 6:30 には起きるようにしていました。そこから 2 時間程度勉強し朝食にホットコーヒーを飲みながらパンを食べていました。昼食は 12 時頃とっていました。午後に眠くならないようになるべく炭水化物は避け、量も取りすぎないように制限をしていました。全く取らないのも一度試しましたが、お腹がすきすぎて頭が働かなくなってしまったので、某ゼリー飲料と軽めのお菓子を食べていました。普段の学習では午後も集中できるように、昼食後 30 分程度の仮眠を取ることが多かったです。ただ、模試の時は本番を想定して仮眠は取らず、自分の好きな曲を聴きながら 15 分程度散歩をしていました。朝、昼と食事に気をつけている分、試験終了時刻である 16 時以降は特に気にせず、夕食は好きなものを食べるようにしていました。夜の勉強に支障が出ないように夕食も軽めにとるという方法もありますが、朝型の私は夜遅くまで勉強することはほぼなかったもので、あえて夕食は多めにとり、良い具合に睡魔が来るように調整していました。また、1 日の勉強時間が 11 時間を超えたあたりからあまり頭が働かなくなっていたので、翌日に脳疲労を残さないために、模試と試験前日の夜は一切勉強せず、湯船に浸かりながら好きな動画を見てリラックスするようにしていました。これは松本先生が雑談の中でおっしゃっていたのですが、休憩中見る動画は笑える動画が良いそうです。私は好きな芸人の動画を数本見るようにしていました。このように試験当日のスケジュールや自分の体質などを考慮した上で、1 日のルーティーンを何パターンも試すことをおすすめします。

SNS との向き合い方

SNS との向き合い方も人それぞれかと思います。私は周りの受験生の動向を知るために SNS を活用していました。ただ、どうしても模試の後にタイムラインで、S 判定の結果報告を見ると、自分の成績と比較し、自信を失い自己嫌悪に陥ってしまうことがありました。どの受験生も良い成績しかポストしないと頭では理解しているものの気にしてしまうため、私は容赦なく自分より良い成績のアカウントをミュートしていました。自分の心の平穏を保つための対策は必要だと思います。

SNS をやるもう一つの目的として、モチベーションの向上に繋げるというのもありました。特に憧れている先輩司法書士の方々だけのリストを作り、「自分もこういう生活をする！そのために今頑張る！」と士気を高めていました。その他に司法書士以外の士業受験生の方のリストも作っていました。他の士業であれば他人の成績が気になることもないですし、目指す所は違えど同じ志を持つ受験生に刺激を受けることが出来ました。

このように明確な目的を持った上であれば、SNS は決して悪ではないと思っています。

後進へのメッセージ

ここまでお読みいただくと分かっていただけかと思いますが、私の勉強法は何のオリジナリティもなく、松本先生や過去の合格者の方々の勉強法をそのまま取り入れたものばかりです。

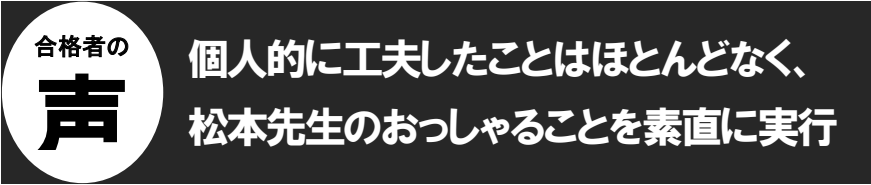
私が合格できた要因は、不必要なプライドを捨てて、先生からのご指導や合格者の方々の勉強方法や生活リズムをそのまま取り入れて、自分にあった方法を試してみたことだと思います。最初から「この人は元のスペックが高いからこの方法で受かった」「この方法は自分には合わないだろうと」先入観を持たずに、柔軟に取り入れたことで、この高い壁を乗り越えることが出来ました。そして、この難関試験に合格できたという経験が、今の自分の一番の支えになっています。元々自己肯定感が低く人生における成功体験も少なかったのですが、合格した現在は日々生活する中で「自分は司法書士試験に受かるくらい頑張れたんだから、何でも出来るはず！」とこの経験が大きな自信になっています。

司法書士試験は決して簡単ではないですが、松本先生の指導に従ってこつこつ努力することで合格への道は開けると思います。

どうか健康に気を付けて頑張ってください。皆様のご健闘を心よりお祈り申し上げます。

そして最後になりますが、松本先生をはじめ、辰巳

法律研究所のスタッフの皆様、本当にありがとうございました。



令和 6 年度合格者 N. W さん  
受験回数 1 回

### 司法書士試験の受験を決意した経緯、合格までの受験状況

私が司法書士の受験を決意した理由は、3 つあります。

1 つ目は、学歴コンプレックスを克服するためです。私の学歴は高いとは言えず、社会人になってからずっと学歴にコンプレックスを抱いていました。自信を持ってないネガティブな自分を変えたくて、難関資格に合格するという目標を定めました。

2 つ目は、特定の分野の専門家になりたかったからです。

前職は 2、3 年で部署を異動することが多く、広い分野のゼネラリストになることが求められましたが、私は特定の分野を極める方が向いていると感じ、専門的な職業に就きたいと考えるようになりました。

3 つ目は、働き方を選べることです。司法書士は法人で勤務することも独立開業することもでき、開業した場合もバリバリ働く人もいれば仕事量をセーブしてマイペースに働く人もいるということを知り、働き方を選べる魅力的な職業だと思い、司法書士を目指すことを決めました。

### 勉強法全般

#### 松本基礎講座を選んだ理由

市販の教材の中でリアリテキストが人気だと知り、初めはリアリテキストで独学で学習しようと考えました。しかし可処分時間などを考えると予備校の講座を利用して効率的に学習すべきだと考え直し、リアリテキストを使って講義をしている松本基礎講座を受講することになりました。

#### 勉強法などで工夫した点

個人的に工夫したことはほとんどなく、松本先生のおっしゃることを素直に実行しました。

講義で「ここは今すぐ暗記してください」や「このページをコピーして壁に貼って毎日見てください」などと言われたことは全て即実行しました。

勉強法ではありませんが松本先生が「同じネクタイを数本持っていて、服を選ぶことに頭を使わない」とおっしゃっていたのを真似して、私服可の職場でしたがスーツと白のシャツを数着用意し、毎日ローテーションで着ていました。他にも松本先生が講義の合間にお話しされることや YouTube チャンネルで紹介している勉強法や生活の工夫は、できるだけ取り入れました。

フルタイム兼業の時の勉強時間は、出勤前 1 時間半、通勤時間と昼休み 1 時間半、夜 2 時間、合計 5 時間でした（ただし繁忙期の時は 2 時間程度でした）。

2 月下旬に退職し専門になってからは、朝 8 時から夜 2 0 時まで休憩時間を除いて 1 0 時間勉強しました。1 2 時間以上勉強した日もありましたが、翌日に疲れが残ってしまい集中力が落ちてしまったので、1 日 1 0 時間と決めました。

直前期以外は、金曜の夜はオフにし、土日のいずれかで半日以上オフの時間を作りました。直前期も、1 週間のうち 1 回は半日オフにする日がありました（息抜きも大切です）。

### インプット段階

#### 令和 5 年 5 月～令和 6 年 4 月頭の学習

講義ごとに行う「予習・視聴→復習 1 回目→過去問→復習 2 回目」のうち、1 回目の復習を 2 4 時間以内・2 回目の復習を 7 2 時間以内にできるようにスケジュールを組みました。なお講義は、初期は 1・5 倍速、慣れてきたら 2 倍速で視聴しました。

（例）  
月曜朝：民法 2 予習・視聴 夜：民法 1 復習 2 回目  
火曜朝：民法 2 復習 1 回目 夜：民法 2 過去問  
水曜朝：民法 3 予習・視聴 夜：民法 2 復習 2 回目・・・

講義視聴と復習 1 回目を優先し、過去問や復習 2 回目ができなかった場合は週末に行うようにしました。

自宅から駅まで歩く時間は、音声学習で雛形の暗記をしました。通勤退勤の電車と昼休みは、テキストの

追っかけ復習をしました。

常にテキストを持ち歩き、少しでも時間が空いたらテキストを読んでいました。

一時期、体調を崩してしまい全く学習できない期間が 2 ヶ月以上ありました。体調が回復してからは、土日にこなすノルマを増やして 1 週間に講義を 4～5 コマ消化し、追いつくのには 3 ヶ月かかりました。

1 2 月～1 月は仕事が繁忙期で講義の消化が大幅に遅れてしまったのですが、2 月下旬に仕事を退職し専門になってからは 1 日 1 講義を消化し、全て 4 月頭に受講し終えました。4 月頭に受講し終え直前期を全て復習にあてることができたのが、合格できた要因だったと思います。

### アウトプット段階

#### 直前期（4 月～7 月）の学習

テキストを、メイン科目は 5 周、マイナー科目は 4 周しました。

択一過去問は、午前科目（会社法を除く）は 1 周＋間違った問題を直前にもう 1 回、午後科目と会社法は 2 周しました（午後科目と会社法が苦手だったので、解く回数を増やしました）。

答練や模試で、午前択一は 2 5 問ほど取れるようになりましたが、午後択一が 1 5 問ほどしか取れない日々が続いたので、6 月以降は毎日、全ての午後科目の択一過去問を解きました。解く時は必ずストップウォッチを使って時間を計り、最終的に午後科目は 1 問あたりマイナー 1 分、不登法商登法 1 分半以内で解けるようになりました。

記述は、基礎編を 2 日で 3 問、基礎編が終わったら本試験形式を 2 日に 1 問（直前 1 週間は 1 日 1 問）解きました。午後択一を伸ばすことが最優先だったので、記述の問題演習は少なめになりました。

前日に間違えた問題やテキストでアウトプットできなかった箇所は、翌日の最初に復習をしました。時間をかけすぎないよう、復習は 1 時間以内と決めていました。4 月は 1 時間かかっていた復習も、徐々に短くなり、最終的には 1 0 分以内に終わるようになりました。

### 合格に至るまでの出来事

#### 仕事、家族や友人

兼業時代は毎朝 5 時に起き、仕事が繁忙期の時でも朝の勉強は死守していましたが、それでも残業を避けることができず勉強時間が足りないかと判断し、仕事を退職することを決意しました。絶対に令和 6 年に合格したかったので、背水の陣でした。司法書士試験の受験を決意した当初は「仕事は辞めない方がいい」と言

っていた夫でしたが、私が毎日勉強する姿を見て、ベストな状態で試験に臨むのが 1 番だと言って退職に賛成してくれました。

直前期には家族に不幸があったり避けられないトラブルがあったりして勉強が手につかない日もありましたが、司法書士試験を諦めるという選択肢はありませんでした。泣きながら勉強した日もありました。

友人には「来年司法書士試験に合格するから、試験が終わったら遊ぼう！」と宣言して、令和 5 年の 1 1 月から令和 6 年本試験まで会いませんでした。実家にも 1 年以上帰省しませんでした。

### 模試

私は地方在住なので、模試は会場受験できる他校のものを 2 回利用しました。服装、持ち物、昼食などは本試験当日と同じものを用意し、問題がないか確認しました。前年にお試し受験をしたときにエアコンが効いていて寒かったので、脱ぎ着できるものを 2 枚用意して温度調節は特に気をつけました。

### 本試験当日

試験会場に到着したら、緊張を解くために、会場の周りを散歩したり、廊下で軽くストレッチしたり、他の受験生の様子を観察したりしました。緊張が和らいだら、松本先生の直前期のヤマ当てのレジュメやテキストを読んで過ごしました。リアリテキストはお守りとして、1 番薄い供託法・司法書士法を持って行きました。

午前科目は順調に終わり、2 回見直しをしても 3 0 分程時間が余りました。全くわからない問題がありましたが「これはみんな分らないやつだ」と思って全く焦りませんでした。

昼休憩はおにぎりを 2 個と缶コーヒーを摂りました。昼食後は机で 1 0 分仮眠した後、歯磨きとストレッチをして目を覚まし、レジュメを眺めて過ごしました。

午後は最後まで不安があったので、始まる前はとても緊張して胸がバクバクと鳴って手も震えていました。択一はマークの見直しを含めて予定通り 6 0 分で終わりましたが、不登法記述の問題を何度も読み返してしまい 7 0 分かかってしまいました。更に名変を落とすという大失態をしてしまいました。しかし、択一で上乗せに余裕があったことと名変以外は大きなミスがなかったことが幸いし合格することができました。

### 自己の反省を踏まえ、これから受験する人へのアドバイス

明確な達成目標（「4 月頭までに講義を全て受講し終える」「4 月から 7 月までにテキストを 5 周する」

等)を立て、その目標から逆算して学習スケジュールを必ず立てるようにしてください。引っかかる論点などがあっても立ち止まらず前に進み、設定したノルマは必ず完了させる「完了主義」になることが重要です。

睡眠時間を削ると体調を崩したり記憶の定着に悪影響が出るので、できるだけ睡眠時間以外から時間を捻出することをおすすめします。ウォーキングやストレッチなど適度な運動もできるだけ行ってほしいです。とにかく体調には気をつけてください。

記述はとにかく慣れが必要なので、直前期は本試験形式の問題演習を増やすべきだったと反省しています。

私は本番でとても緊張してしまったので、模試を受ける際は「これは本試験だ」と思い込んで受験した方がよかったと思います。

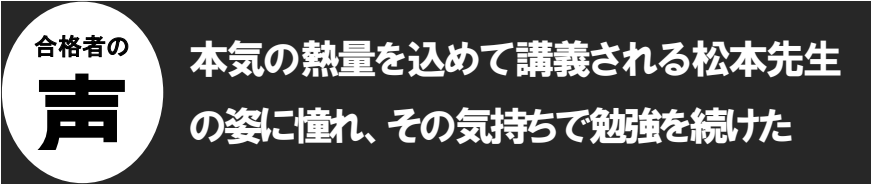
直前期に「合格できなかったらどうしよう」と不安になったら、「落ちた時のことは本試験が終わってから考えよう」と開き直ってみてください。私は雑念が減って勉強に集中できました。

後進へのメッセージ

覚えたはずのことを忘れるたびに「自分は記憶力が悪い」と嫌になってしまうかもしれません。でも、合格者もみんなそうです。2、3回テキストを読むだけで記憶できる人なんてほとんどいません。反復と継続、これに尽きます。

私は模試と答練で、午前択一は最高でも25問取れる程度、午後択一は1回しか基準点を超えることができませんでした。それでも当日までテキストと過去問を繰り返し、本試験では午前32問、午後30問を取ることができました。最後の1週間でも点数は伸びますので、最後まで諦めないでください。

司法書士試験は正しい勉強法を愚直にこなすことで突破できる試験だと思います。松本基礎講座では正しい教材やアドバイスは与えられますので、あとはあなたが実行するだけです。根性論になりますが、最後は自分との戦いになります。本試験日16時まで諦めずに最後まで戦い抜いてください。応援しています！



令和 6 年度合格者 H. T さん  
受験回数 1 回

はじめに

16歳で高校を中退し、就職せずフリーター生活を続けてきました。将来のことを何も考えずに実家からアルバイトに通う日々を過ごし、20代後半を迎え、そろそろ自立した方がいいのではないかなと思うようになりました。そこで、稼ぐ力を身につけるために資格勉強を始めてみたところ、行政書士と簿記2級に運よく一回で合格することができました。このことをきっかけに、より難しい資格試験に挑戦することに興味を持つようになり、そこから様々な資格試験と講座について調べていたところ、リアリスティックに出会いました。「テキストでアウトプット」という勉強法にとても惹かれ、司法書士試験に挑戦することに決めました。

私のとった勉強法

択一対策について

講座開講前から、民法先取り受講で対策を行いました。これは、令和4年度17位合格の伊藤さんが、辰巳のYouTubeでお話しされていた勉強方法を参考にさせていただきました。伊藤さんは、民法先取り受講を利用して早くから勉強を始め、お試し受験で民法20問中19問取るまでに実力をつけたということでした。私もそれを目標にし、民法先取り受講特典が利用できる令和5年1月より勉強を開始しました。講義を聞きながらテキストに書き込みも行い、講義を聞き終わった後は、お試し受験までテキスト回しを繰り返しました。

テキスト回しをする上で、記憶しなければならない箇所はアウトプットするということを徹底しました。テキストのページを紙で隠し、紙をずらしながら、赤や緑の下線が書かれた結論部分を思い出そうとしながら読み進めました。

「テキストでアウトプット」は、松本先生の推奨されている勉強方法ですので、リアリスティックテキストはアウトプットしやすいように工夫して書かれて

います。「～の可否」という見出しや、本文中で「～の要件は以下の3つです。」のようにわかりやすく問題形式になっている記載も多くあり、そこで止めて結論を思い出そうとすることで、知識をアウトプットできます。

しかし、まとめ本や問題集ではなく、あくまでもテキストなので、全てが問題形式で書かれているということではありません。ですが当然、問題形式になっていない箇所も記憶する必要があります。そこで、具体的な問いになっていない見出しにも、鉛筆書きで問題を加えたり、空いているページに自作の問題を書いたりして、全ての知識をアウトプットできるようにしました。例えば、「遺留分の意義」という見出しが書かれた箇所に「特定財産承継遺言や相続分の指定も、遺留分の侵害になる？」のように具体的な問いを加えることで、心が折れることなくテキスト回しができました。たしかに、具体的な問いになっていない見出しで止めてどのような論点があったか？というところから思い出す方が、より実力がつくかもしれません。(松本先生も見出しの文言にすごくこだわってデザインしていると仰ってましたので、それに書き加えたりするのもナンセンスかなとも思いました。)しかし、そのような高いレベルのアウトプットは負担が重く、そこで止まってしまったので、どこまで考えればいいのかのわかりやすく、止まらずにテキスト回しができる仕組みを作りました。

このような方法で民法のテキストを6回回して迎えたお試し受験では、民法20問中17問正解しました。この経験から、自分のやり方は間違っていないと確信することができ、その後の他の科目においても同じような方法でテキスト回しを行いました。

記述対策について

記述の対策は、主に問題演習になりますが、程よく大雑把に行ったことが効果的だったように思います。記述の講義が始まった頃、講義の内容を全く理解できませんでした。当時は不動産登記法・会社法商業登記法のテキストの復習がほとんどできていなかったか

らです。そこで、テキストの復習を3～4回行い基本的な知識が身についた頃、記述の講義で扱った問題を解き直すだけでなく、講義を再視聴していました。改めて講義を聞き直すと、内容が分かるようになっていたので、実力がついていることを感じられ、これからも再視聴を続けようと考えていました。しかし松本先生に相談した際に、そのような勉強方法についてご指摘を受けました。

「直前期に記述の講義を聞き直しても、あまり点数に繋がりません。解いた問題の解答を読んで、全く意味がわからないという状態でなければ、それ以上解説を読んだり講義を聞き返したりする時間を使わないでください。」

このアドバイスを頂いて以来、点数に繋がる時間の使い方をより強く意識するようになりました。直前期は毎日記述の問題を解くようにしましたが、自分の答案と解答を見比べる時間は5分も使わず、特に不動産登記法については、申請する登記の大枠が合っているかだけを確認するだけにしました。「ディテールはテキストで覚えよう。」と割り切って、添付書面などを細かく添削する作業に時間を費やさず、その分テキスト学習に時間を使えたのが良かったです。

インプット段階

直前期に入る前まで、平日は6時間ほどの勤務時間でパートの仕事をしながらの勉強期間でした。勉強時間は、平日は3時間、休日は7時間ほどでした。

休日はその日の気分ですることを変えて、スターバックスで勉強したり、運動不足対策のために散歩に出かけたりしましたが、平日のルーティンはガチガチに決めました。通勤の電車内でテキストを読んで予習し、出勤の2時間半前には職場に着いて、就業時間まで講義を聞きました。講義のない日は過去問を解きました。また、昼休みも30分勉強時間にしました。帰りの電車では講義の音声データを聞き流すようにしました。(最初は申請書の音声データを聴こうとしましたが、電車内など雑音の中では聞き取りにくいことがあり、また疲れて集中力が落ちている状態では全然頭に入りませんでした。講義の音声データにするとよく聞き取れたのでそうしました。)帰宅後も少しは勉強することが多かったですが、22時半には就寝するように決め、夜遅くまで勉強することはありませんでした。できるだけ早く寝て、睡眠時間を確保しながら早起きすることを心がけました。

アウトプット段階

2月いっぱい仕事を退職して専業受験生になったことで、時間的な余裕を持つことができたこともあ

り、カリキュラムどおりに講義を最後まで聞き終わりました。スケジュールとしては問題なく直前期に入り、最後の講義で配布された「直前期リアリスティックマニュアル」のモデルスケジュールと同じように勉強を進めていました。

しかし5月末頃からは、会社法・商業登記法に比重を置いたスケジュールにアレンジしました。その時点での模試や年度別過去問において、会社法でも商業登記法でも3問しか取れないようなことがあったため、松本先生からも「6月、7月は会社法・商業登記法をより多く回しましょう。他の科目の復習が不十分なまま本試験に行くことになってても良いです。」とアドバイスを受けました。それから他の科目を回す回数を減らし、マイナー科目はAランクの論点に絞り、浮いた時間を会社法・商業登記法のテキスト回しに充てました。また、毎日1問解いていた記述の問題も、3日のうち2日は商業登記の問題にしました。

かなり会社法・商業登記法にリソースを割いて対策しましたが、簡単に得意にはならないのが現実でした。最後に模試を受けた6月16日の時点では、会社法6問、商業登記法6問と、全く安心できない結果でした。さらにその模試は他の科目の復習はほとんどできないまま受けたため、午後択一は16問しか正解できませんでした。しかしその後も本試験まで、会社法・商業登記法の勉強を最優先にすることは続けました。私自身「会社法分野に強い司法書士」という将来像に漠然とした憧れを持っていたこともあり、会社法・商業登記法と心中するつもりでテキストを回し続けました。

本試験当日のこと

本試験までに4回の模試を受けましたが、本試験当日が最も高得点でした。それどころか直前期に解いた直近5年の年度別過去問を含めても本試験が最高の出来でした。本試験で良い結果を出せた要因は、直前の会社法・商業登記法の追い込みが奏功し、会社法9問、商業登記法8問全て正解することができたことです。また、民法について講座開講前から準備していたことも大変助かりました。直前期は2回ほどしか民法のテキスト回しができなかったですが、先取り受講で蓄積した知識で、本試験の民法は18問取ることができました。

なお、松本先生のアドバイス通り、本当に他の科目の学習が不安な状態で本試験を迎えましたが、なんとかかかりました。不動産登記法の記述では「保障委託契約による求償債権」と記載しなければならないところを正しく書けないほど、基本的な知識にも抜け漏れがありましたが、大枠が合っていたため、足切りになっ



てしまうこともありませんでした。

後進へのアドバイス

私はこの試験において、午後科目で非常に苦勞しました。本試験までに受けた模試の午後択一の成績は以下です。

- 1 回目：1 8 問
- 2 回目：1 9 問
- 3 回目：2 3 問
- 4 回目：1 6 問

特に 4 回目は 6 月 1 6 日の辰巳の模試でしたが、「最後の模試で 1 6 問は酷すぎる！」と滅茶苦茶焦った記憶があります。その後、必死で商業登記法を得意科目にし、3 週間後の本試験では 2 7 問取ることができました。怒涛の追い上げで命拾いしましたが、そもそもなぜ午後科目でこんなに苦戦したのかについて考えて、お伝えしたいです。

不動産登記法の講義の途中(根抵当権あたり)から、指定された過去問が終わらなくなりました。この時期の具体的な勉強時間の使い方は、①講義を聞く→②講義で扱った箇所をテキストで復習せずに、指定された過去問を解く→③過去問が終わらないまま次の講義の日になり、講義を聞く→④週末に残った過去問をまとめて解く、、、というのを繰り返しました。過去問の解き方については、テキストの復習をせずに、よくわからないまま過去問を解いていたため、とりあえず問題を読みながら線を引いて、答えを見するという作業をしていました。また、会社法・商業登記法、午後マイナー科目へと講義が進むと、不動産登記法のテキストを開いて復習することもありませんでした。

この時期の過ごし方が良くなかったと思います。まずは、講義が終わった直後にテキストで理解重視の復習をするべきでした。その時間を取らなかったため、過去問を解く時間が実力に繋がりませんでした。また、解く過去問の量を減らしてでも、会社法・商業登記の講義の途中で不動産登記法の復習をしたり、午後マイナー科目の講義の途中で会社法・商業登記法の復習をすることができれば、より良かったと思います。今自分がタイムスリップして、不動産登記法の講義のころの自分にアドバイスするとすれば、①講義を聞く→②講義で扱った箇所をテキストできちんと復習→③週末に、指定された過去問のうち「マスト過去問」に絞って解く、、、のような勉強にしろと伝えます。

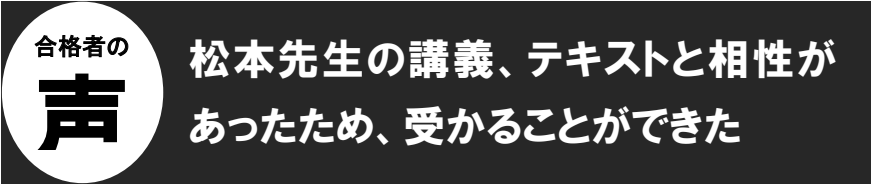
上記のように、午後科目では苦勞しましたが、午前の刑法と憲法は、直前期の模試などでも比較的良い点数を取れていました。3 月から専業になったことで刑法、憲法の講義の時期は時間的に余裕があり、講義前の予習や講義直後の復習の時間をきちんと取ること

ができたのが要因です。また、講義で聞いた知識を忘れる前に直前期のテキスト回しで復習できたため、知識の定着も早かったと考えます。やはり、講義でインプットした知識をできる限り短いスパンで復習することが効果的でした。

最後に

まずは松本先生にお礼がしたいです。本気の熱量を込めて講義される松本先生の姿に憧れ、その気持ちで勉強を続けられました。常にプロフェッショナルな態度を見せてくださりありがとうございました。リアリストックのように、人の人生を変えられる仕事を自分もできるようになりたいです。

また勉強をサボりたくなったときはいつも、合格者の方々が話しされている、辰巳の YouTube を見るようにしていました。フルタイムで働きながら合格された方や、育児と勉強を両立して合格された方の言葉を聞くと、身が引き締まる思いになりました。かつこいい背中を見せてくださった先輩合格者の皆様にも感謝申し上げます。



令和 6 年度合格者 S. Sさん  
受験回数 1 回

はじめに

学生の頃から司法書士という職業は知っていましたが、試験の難しさゆえに最初から諦めていましたが、社会人3年目あたりから人生このままで良いのかと考えるようになり、司法書士試験に挑戦しようと決意しました。

いつかは自分の看板を背負って仕事をしたいという気持ちがあり、勉強をしていくうちに司法書士になりたいという気持ちがだんだん強くなっていきました。

最初のお試し受験では講義の進んでいる民法だけはしっかりと点数をとるつもりで受験して、9割正解することができたことが自信にもなり翌年の試験で合格することができました。

令和5年の7月から司法書士事務所で勤務を始め、所長の提案により週3日間勤務で残りは試験勉強をさせてくれ、直前期の3ヶ月は試験休みもいただいて試験勉強に集中できる環境も整えて下さりました。家族、職場、予備校に恵まれて勉強に集中することができたことにより短期合格できたと思っております。

私のとった勉強法

大学受験、公務員試験、宅建試験といくつかの試験を受けてきましたが、すべてに共通すると考えていたことは合格に必要な知識だけを勉強することです。合格に必要な知識だけを勉強し最短のルートで合格に導いてくれるのが予備校であるため、予備校で習ったこと以外は知識として取り入れないこと、講師の指示に従った勉強をすることを心がけて取り組みました。

リアリスティックの受講した理由は YouTube で予備校の情報を調べていると松本先生の「2000時間で合格できる」という内容の動画を視聴して松本先生についていこう！というきっかけとなりました。多くの松本先生の動画をみたり、無料講義などをみてテキストに線を引いたり色分けをしたりしており、私に合っているのではないかと思います松本先生の講義を受講

して15か月で受かるぞ！という気持ちになりました。

択一について

午前の試験は時間があるため、30点以上を確実に取れるように知識を固めました。民法に関しては取り組みやすく、多少難しく思うところもありましたが、理解に苦しむということはありませんでした。民法先行学習からお試し受験までにテキストを7周読み込みました。

1番の壁は会社法でした。今まで学んだことがなく講義にもついて行けない状況が続き、全く理解できないところも多く、3時間の講義を4時間以上かけてみることがほとんどでした。過去問もだんだん手をつけてられていない数が多くなり、3つ前の講義の過去の過去問を解いても全く解けなくて思い切って過去問はいったんやらずにテキストを回すことに集中しました。講義プラス1回テキストを回したところで少し理解してきたところで、手をつけていなかった過去問を始めました。この時期が直前期の4月頃でした。一度理解しはじめたら一気に知識が定着し始めました。結局、会社法に関しては過去問はCランクの箇所など一度も解いてない過去問もありました。過去問の前半はマスト過去問2回ほど解きましたが、後半はマスト過去問1回しか解くことができませんでした。多くの受験生が会社法に苦戦するかと思います、何度もテキストを読んでいるうちに理解する 때가 やって きます。

会社法の次に苦しんだのが不動産登記法でした。問題もすべての知識を知っている前提での出題が多いです。総論部分に関しては最初は全く理解できませんでしたが、これも会社法同様に3周目あたりから少しずつ理解できました。

不動産登記法と会社法さえ乗り越えればマイナー科目は難しくはあるものの乗り越えることができるはずです。

マイナー科目について

まずマイナー科目は年明けから始まり、時間も無い

ためCランクは講義以外はほとんど勉強しておりません。マイナー科目については過去問を重視しました。直前期の5月の後半ごろから民事訴訟法以外は4回ほど過去問をといて試験当日まで記憶が新鮮なまま試験に臨むという作戦でいきました。

テキストについては民法9回（内直前期2回）、不動産登記法8回（内直前期6回）会社法・商業登記法8回（内直前期6回）、民事訴訟法6回（すべて直前期）、その他6回（すべて直前期）

テキストの読み方はもちろんただ読むのではなく理解しようとして読み、アウトプットできるところはやりました。何回も読んでいるうちに自分の苦手な分野もわかってきますので、既に理解記憶している箇所とそうではない箇所を強弱をつけて読み込んでいました。

また、勉強をしてみて直前期にテキストを5回以上回すことができれば合格レベルに達することができるのではないかと思います。

記述対策について

申請例のひな形の記憶に関して、不動産登記法は特殊なもののみを声に出して覚えることをしました。※例えば「目的：1番抵当権を所有権全部に及ぼす変更」、「目的：1番根抵当権の根抵当権者をAとする変更」など、そのほかのスタンダードなものはテキストを何度も読んでいるうちに自然と覚えているという感覚でした。また、書いておぼえるということはしてありません。声に出して言うことができれば書くこともできるからです。商業登記に関しては不動産登記よりも「登記すべき事項」の文言が長いものが多いので、覚えにくそうなものは1枚の紙に書いて10回連続で読み上げるなど口に出して覚えておりました。（10回読み上げても2〜3分で終わります。本試験形式も問題は1問10ページ以上のものが多いですが、毎年でくる決まった注意事項などをできる限り高速で読むことで、必要な情報を読み解く時間に使えます。私の考えでは今後の試験に関しては午後は択一50分以内で解き終えて残りは記述にあてるべきだと感じました。

直前期で順位は入れ替わる

松本先生は、直前期にテキスト5回読み込むという直前期計画を推奨します。

直前期にテキストを5周することに意味があると考えます。

半年前に5周するのとは記憶の新鮮度が違います。また、2000時間で合格レベルに達する事ができるといえど、時間の使い方も重要であります。半年前の3ヶ月間で800時間、直前期に500時間よりもその逆の方が記憶の新鮮度にも違いが出ます。

そのため、直前期の3ヶ月は仕事は人それぞれ家庭環境、職場環境など違いがあると思いますが、出来る限り試験勉強に費やす時間を確保することが大事だと考えます。

また、直前期は知識の詰め込みと試験当日に知識をピークに持っていく作業的なものが必要となります。私の場合は試験3日前にテキストの6回目を終えて、残りの日はマイナー科目や苦手分野、予想講義で出題予想された箇所の見直しなどをしながら体調管理に努めておりました。

答練、模擬試験の活用

答練は午後の回すべて、午前は4回中2回ほど受けました。ほかの予備校の答練、模試は受けておりません。試験時間を意識して解きました。最初の方は記述の不動産→商業の順で商業の裏面まで書ききることができなかったりしましたが、記述の問題演習をこなしているうちに読み解く速さはあがっていましたが、6月の最後のほうまで時間ギリギリだったり、書ききれなかったことがありました。択一の問題に関しては点数はやはり気になりましたが、低い点数をとっても落ち込まないで前をむいて勉強し続けていくことが大事だと思います。私は6月の模試で午後科目の択一で19点をとってかなりへこみました。その時ちょうど解説講義かYouTubeで「1度くらいは問題の相性とかでズタボロの点数をとることがあるかもしれない。」とあり、落ち込んでいる私にとっては励ましの言葉を聞き、すぐに切り替えて勉強に集中しました。

試験直前～当日

試験2週間前頃から毎日プレッシャーに押し潰されそうになりながらの日々でした。特に就寝前に不安な気持ちになる事が多く、熟睡できない日々が続きました。

試験当日は会場入りまでは不安はあったものの、いざ試験が始まると緊張している場合ではなく、ただただ試験に集中しておりました。

午前が終わったときは、30点以上はあるだろうという手応えがありました。

休憩時間は近くの公園で散歩して着席時刻の20分前ほどからマイナー科目の苦手な場所をさらっと見返して午後の試験に臨みました。

午後は松本先生のアドバイス通り供託法から遡って民事訴訟法までを解いて不動産登記法からは問題順に解きました。スピードを意識しすぎて雑に解いている自覚があり、不安になりましたが、そんなこと考えている時間もないので、そのまま解き進めました。択一は40分ちよつとで解き終え、記述に入りました。答練、模試では不動産登記から解いてましたが、今年

は20ページあり、やばいと思ってとっさに商業登記から解きました。商業を60分で解いて残りは不動産登記に時間をかけました。結果としてこの時間配分は正解だったと思いました。3分前に不動産も書き終え、問題の見返しよりもマークミスのチェック、名前、受験番号を書いているかに時間を使いました。

試験が終わった瞬間はやり切った感がありました。午後択一に多少の不安はありましたが、たぶん受かったかな。という気持ちはありました。

試験勉強にあたり

4歳の双子がいる中、この1年半は家事育児はほとんど妻に任せ家族にもつらい思いをさせました。年末あたりに妻が仕事、家事育児に疲れ切っている中、2〜3年かけて勉強してもいいのではないかという話にもなりましたが、「絶対今回で受かるから！受かったら週末はたくさん出かけよう！」と妻と決意しました。また、所長をはじめ事務所の皆様も応援してください、直前期に3ヶ月も試験勉強休みをくれて、私としては家族のためにも職場のためにも絶対にこの試験で受かるという気持ちでいました。家族と職場の皆様には感謝しかありません。そして松本先生の講義、テキストと相性があつたため、受かることができたと思っています。

最後に

会社法や不動産登記法など勉強に関して難しくて理解できない。などの壁に当たったことは何度もありましたが、諦めようなどマイナスなことを思ったことは一度もありませんでした。絶対に今回の試験で受かるとしか思っておりませんでした。学生の頃始める前からあきらめていたこの難しい司法書士試験でも、自分を信じて絶対1回でうかると思い続けて日々勉強し続けることが大事です。

しかし毎日勉強しているのもつらいので、時には息抜きも必要です。私は朝9時から勉強していましたが、今日は17時まで勉強して家族とドライブ、外食に行くぞ。などとうまく息抜きリフレッシュをしながらモチベーションを維持してきました。

私がこの試験で特に重要と感じたのは、1. 気持ち 2. 環境 です。勉強時間と絶対に一発で受かるという気持ちさえあればたとえ1発で受からずとも短期合格はできます。

環境については人それぞれ違うと思いますので、できる限りでの時間の確保をするべきだと思います。

皆様も司法書士になるという強い気持ちがあれば絶対に合格できます。将来、一緒に司法書士業界を盛り上げていきましょう。

合格者の  
声

松本先生の記述式採点基準を見て、この人を選んだのは間違いじゃなかったと実感



令和 6 年度合格者 T. Nさん  
受験回数 1 回

はじめに

公務員として法律を扱う仕事をしていく中でもっと自由に自分の力で仕事がしたいと思うようになり転職を決意しました。様々な転職先がある中、これまでの経験を活かせる仕事は何か考えた時に法律系の仕事しかないなと思い、その中で司法書士を受験しようと思ったのは受験資格が不要で合格後の就職が比較的容易であること、社会的信用性が高く、仕事の幅も広いため自分が望む働き方ができるのではないかと思ったからです。

受験期間はできるだけ短くしたかったので、独学よりプロに教わったほうが早いだろうと思い予備校の講座を受講することに決めました。数ある講座の中で松本先生の講座を受講しようと思った理由は以下のとおりです。

- ①講師自身が毎年受験をしていて試験問題の分析をきちんと行っていたから
  - ②使用しているテキストの執筆を講師自身が行っており、各論点における結論に至る理由付けがわかりやすく記載されていたから
  - ③テキストに記載されている情報量が充実しており、レイアウトも見やすかった（索引部分が条文、判例、先例、登記研究からも検索できるようにされていて執筆者の高い熱量を感じた）
  - ④YouTube で公開されている民法等の講義を受けてみて、声も聞き取りやすく、直感的にいいと思った
- 私は令和 4 年 1 0 月から 2 0 ヶ月合格コースの受講を始め、当初は仕事をしながら受験しようと思っていましたが、令和 6 年 1 月頃に引っ越しを伴う距離の転勤を命じられてしまい、かなり悩みましたが退職を決意し、3 月からは専業で勉強を行ってきました。ここで仕事をやめていなければ合格できなかった可能性があるため、今となっては決断してよかったと思っています。

私の取った勉強方法

全般

私は勉強する時に i p a d を利用しており、勉強開始前の準備として、教材をカッターですべてばらばらにして、スキャナで p d f にして i p a d に取り込み g o o

d n o t e というアプリに貼り付けて勉強していました。前職で電話や窓口応対をしていてわからないことを調べる時に電子化した専門書を特定のキーワードで検索して調べるやり方を取り入れて仕事にかかる時間をかなり削減できたので試験勉強にも応用してそのようにしていました。

また、勉強は基本カフェやコワーキングスペースで行っていたのですが、周囲の雑音をカットして集中状態を作るために強力なノイズキャンセリング機能の付いたワイヤレスイヤホンをつけてお気に入りの音楽を聴きながら勉強していました。結果的に毎日中身の濃い勉強ができた気がします。

最初は講義の進捗にあわせて進めていこうかとも思いましたが、それだと遅すぎると感じて、講義がアップされた日には講義の動画を見る、それ以外の日にはテキストも過去問もどんどん進めていくというやり方で勉強していました。

平日は仕事があったためあまり勉強できていませんでしたが、朝早く起きて少しテキストを読んだり、自宅と職場の往復の時間に講義の音声データを聞いたりしていました。ただ、あまりやる気が起こらずせいぜい 1 時間から 2 時間程度しか勉強していませんでした。その代わり、土日は 1 0 時間以上勉強するようにしていました。

択一対策

テキストを読み進めていき、ある程度進んだら該当箇所の過去問をやるというやり方をとっていました。

趣味で T O E I C を受験していて、また公務員試験の受験経験上 1 度に大量に読んで、復習の頻度を高めることが記憶の定着に有用であることはわかっていたので、勉強最初期はテキストを進める時は 1 週間で 1 周（例えば民法なら 1 週間で 3 冊全部読む）、過去問を解くときは 1 回あたり 1 0 0 問程度を目標にしていました。序盤はそこそこ頑張っていましたが、講座が進む毎にきつくなり、あまり目標通り進まなかった気がします。

また、会社法だけは辛くてしょうがなく、松本先生の講義を受講していなければここで挫折していたのではないかと思います。講義全般について言えることですが、抽象的でわかりにくいポイントについて松本先生が具体例を交えてわかりやすく説明し、また、様々な小話を

挟んでいただけたことで手続きのイメージがしやすくなり知識の理解にとっても役立ちました。

直前期についてはテキストをやる日は 1 日 6 0 0 ページ以上、過去問をやる日は 1 日 2 0 0 問以上を目標にやっていました。その日の体調や気分で思い通り進まない日もあり苦戦しましたが、割と目標通りできたと思います。

結局最終的に主要科目についてはテキストは 3 0 周近く、過去問は 2 0 周程度（直前期はテキストを中心にしていたので過去問をあまりやっていませんでした）、マイナー科目はテキストも過去問も 1 5 周程度はやったと思います。

直前期の答練模試ですが、私は辰巳のものだけを受講して他の予備校は利用しませんでした。理由としては私が答練模試について求めていたのは時間内に解き切るための技術の訓練と苦しいポイントのあぶり出しであり、他の予備校を利用する必要性を感じなかったからです。実際辰巳の答練模試は問題がよくできており、いい訓練になったと思います。

記述対策

講座を受講し始めて約 1 年経ったあたりで初めて記述の講義がアップされたのですが、全く問題が解けず、こんなに勉強しているのにこのざまかと、自分自身の出来の悪さに絶望して泣きそうになったのを覚えています。記述のとっかかりとしては講座の問題はレベルが高くてきつかったので、リアル記述式基礎編のテキストを別途購入し、講座と並行して解き進めました。また、ひな形集の暗記を徹底的に行い、テキストの周回数も合わせると最終的には 1 0 0 周くらいした気がします。基礎編の問題集を 1 0 周したあたりでなんとなく記述の問題が解けるようになってきて、そのタイミングで再度講座で提供されている問題を解きなおしてみたら、どの問題も 7 ～ 8 割くらい解けるようになっていました。講座の問題も最終的には 1 0 周近く解きなおしました。できるようになってきたなと感じたのは本試験の 2 か月前くらいからでした。

答練模試についてですが、解ける時と解けない時の差が激しかったです。できない時は 5 割くらい、できる時は 9 割近くいくときもありましたが、結局記述については運ゲーの要素が強いなと感じました。

本試験当日について

試験会場のそばのホテルに前泊したのですが、緊張から 2 時間ほどしか眠れず、体力がもつか不安になりました。試験会場には集合時間の 1 時間ほど前に到着しましたが、既にかなりの人だかりができていて、人混みが嫌いな私にはとてもしんどかったです。

自分の席に着席してから試験が始まるまでも緊張が続いていましたが、自分の勉強量がこの会場にいる人たちに負けているはずがないと思えるほど努力してきた自負があったため、不思議と不合格になる気はしません

でした。

午前の試験が開始して 3 問目くらいまで緊張で頭が真っ白になり、なんだかふわふわした感じでしたが、問題を解き進めていくにつれ集中が高まり、自然と緊張も消えていきました。午前の試験時間が終わるまでにすべての問題を 3 回ずつチェックしたのですが、3 5 問中 3 2 問は確実にあっている自身があり、残り 3 問については 2 択で迷う問題 2 問と全然わからない問題が 1 問ありました。難易度がかなり易しいと感じたため、基準点が 3 0 点超えるのではないかと思い、満点とらないとやばいなと思った記憶があります。結果的に 3 3 問正解で、2 問落としたのが悔しかったです。

午後の試験についてはまったく緊張することもなく受けることができ、択一を 4 5 分程で解き終わり、残りの時間を記述に充てることができました。商業登記の記述を解いている時に前日からの緊張のせいかやたらと疲れてきて、重要な情報をひとつ見落としてしまい、意味がわからなくなり若干パニックになりましたが、松本先生が記述でわけわからなくなったら全部登記可にして提出してくださいといっていたのを思い出し、とにかく手を止めることなくペンを走らせました。途中握力がなくなってきたペンを床に落とすハプニングもありましたが、なんとか終了 2 分前に書ききることができました。結果択一は 2 9 問正解、記述は 1 0 0 点でした。

ここ数年の合格最低点を見ている限り 8 割取れていればまず間違いなく合格できるだろうと思っていたため、択一 1 8 0 点、記述 1 0 0 点を目標に勉強をしてきたのですが、帰宅してから自己採点をしたところ択一は目標を超えており、記述も全体でみれば 7 割は取れているだろうなと思ったので、とりあえずほっとしたのを覚えています。

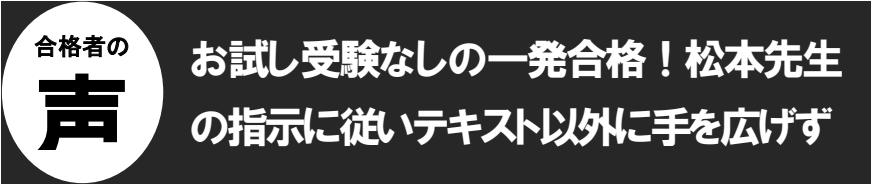
最後に

試験の直前期に松本先生が独自に分析された記述の採点基準の資料を見て、この人を選んだのは間違いじゃなかったと改めて実感しました。やはり試験に関してはその道のプロに学ぶのが一番だと思います。

試験勉強を続けていく中で辛い場面は幾度となくありましたが、この先生を信じて突き進めば必ず合格できると思い愚直に取り組み続けた結果、一発で合格することができました。

リアルはテキストの分量も多いですし、最後までやり続けるには相応の努力が必要ではありますが、その努力をぶつける価値のある教材ですので信じて突き進んでください。

そして合格を勝ち取ってください。最後になりますが松本先生本当にありがとうございました。



令和 5 年度合格者 M. Kさん  
受験回数 1 回

はじめに

会社員として勤務する中で、自分の名前で専門性の高い仕事をする事への憧れと多くの人の役に立ちたいとの思いが強くなり、数年前に退職しました。そこから自分には何が出来るのだろうと模索する中で、大学在学中に宅建を取ったことを思い出しました。民法の勉強が楽しかった記憶から、内容的にも時期的にも行政書士を目指すのが丁度良かったので受験を決意し、半年ほど勉強し合格しました。独立開業をしようかとも考えましたが、たまたま勉強開始と同時に実務を学ぶために勤務を始めた司法書士事務所(兼行政書士事務所)で司法書士という仕事を知り、司法書士の仕事に魅力を感じるようになりました。あまり深く考えないまま勢いで受験を決意し、すぐに松本基礎講座(2021 年向け)の受講を始めて 1 年弱勉強したところで妊娠し受験を断念。妊娠～出産～育児の期間 1 年 4 か月ほど完全に勉強から離れていましたが、産後半年程経ち勉強への意欲も戻ってきたので、再度松本基礎講座(2023 年向け)を受講し、その後 1 回目の受験で合格できました。トータルで 1 年 10 か月の勉強期間でした。勉強期間中に出産し乳飲み子を抱えながらの受験生活はなかなかハードなものではありませんが、むしろ時間の制約があることが自分にとっても合っていて、紆余曲折ありながらも最終的には快適な勉強のリズムを確立できたことが合格という結果に結びつきました。

私のとった勉強方法

別の予備校の講座を申し込みに行くバスの中で、たまたま松本先生とリーダーズ総合研究所の山田先生との対談動画を見て、「この先生についていけば最短で合格できる！」と直感しました。そこで申し込みに行くのは中止し本屋に向かい、松本先生の『司法書士 5 か月合格法』を購入し、そのまま高田馬場に行き松本基礎講座を申し込みました。

1 回目の受講は若干遅れを取りながらもなんとか

ついていきましたが、産後の 2 回目の受講はスムーズにいきませんでした。子どもが生後半年頃で夜中に何度か起きる生活だったのと、産後で脳みそがうまく働かず、1 コマ 3 時間を超える講義を視聴するのがとても苦痛でした。特に会社法・商法・商業登記法が非常に苦手だったのでなかなか進まず、勉強から離れる日が多くなりました。講義の消化はどんどん遅れていき、1 2 月上旬に終わっているはずの会社法・商法・商業登記法の講義は 1 月中旬の時点でまだ半分ほどという有様でした。すっかり勉強への熱意を失ってしまいもう辞めようかと何度も挫折しそうになりました。しかし家族や受験生仲間からの励ましや、チューターの方からの熱心なご指導と助めていただいた手帳術の本のお陰で、消えかかった炎に再び油を注ぐことができました。また、大幅に遅れてしまったペースを整えるため、ライブ授業終了後に松本先生に相談に行き、勉強の進め方のアドバイスをいただいてスパートをかけたのが本試験半年前の 1 月中旬からです。そこからは遅れを取り戻すために 1.3 倍速で週 5 ～ 6 コマを消化しました。アウトプット重視の復習まで手が回らなかったのも、それはカットして進めました。元々指定された過去問のうち、平成 20 年以前の過去問は解いていなかったのも、1 月下旬の時点で過去問の残りが 530 問ほどありました。これを残したまま直前期に入るのはまずいと思い、3 月末までに解き終わるようノルマを設定し粛々とこなしていきました。なんとか 3 月末までに全講義を終え、過去問も全て解き終わり、直前期に突入することができました。4 月からは答練 8 回と他校含めた模試 3 回を受けました。

択一対策について

松本先生の指示に従いテキスト以外に手を広げませんでした。前述の通り大幅に講義の消化が遅れていたのも、追っかけ復習は 3 月末までに主要科目はギリギリ 1 ～ 2 周、マイナー科目に至っては講義終了後のアウトプット重視の復習すらできていない状態で理解・記憶共に全く追いついていませんでした。しかし

松本先生からは、「とにかく直前期に入るまでに全講義を終えることが重要だ」と言われていましたし、テキスト読みの回数を重ねれば点数は上がるだろうと思っていたので焦りはありませんでした。直前期にはテキスト回し 7 周のスケジュールを立て、途中何回か講義終了後に松本先生に相談に行き、答練・模試の成績を元にスケジュールの修正をしました。最終的に民法 3 周、不動産登記法 6 周、会社法・商法・商業登記法 6 周、マイナー科目 4 ～ 5 周をアウトプットしながら回しました。また、アウトプットできなかった箇所はチェックしておいて、翌日に再度アウトプットするようにしました。直前期の過去問は指示通りに 1 周し、間違えた問題は翌日に再度解き直しました。これを毎日の学習ノルマにプラスして行うのがなかなか大変でしたが、もしこれをやらなかったらなかなか知識が定着せず、合格できていなかったかもしれません。これをやるよう指導してくださったことに本当に感謝しています。

直前期の学習が進む中で徐々に知識が定着していき、答練・模試の点数にも如実に反映されていきました。4 月は午前 23 ～ 26 問・午後 18 ～ 20 問しか得点できなかったところ、5 月は午前 27 問・午後 26 問、6 月は午前 32 問・午後 28 問まで取れるようになりました。年度別の過去問は 6 月に入ってから午前午後共に 30 問を下回ることがなくなり、試験一週間前に解いた令和 4 年度の本試験は午前 32 問・午後 33 問取れたのでだいぶ仕上がってきた実感を得ました。本試験前最後の 5 日間でテキスト全範囲をアウトプットしながら回しました。一日 881 ページのノルマでかなり辛かったのですが、これをやれば相対的上位に入れると松本先生から聞いていたので意地でやりました。本試験前日もホテルに全テキストを持ち込んで、時間の許す限りやり残しのないようギリギリまで勉強しました。

記述対策について

申請例の暗記は早くからやるようにとの指導でしたが億劫でなかなか手をつけられず、本格的に暗記をしたのは直前期に入ってからでした。音声データのシャドウイングはまったくやっていなかったのも、直前期の一日のノルマに組み込んで進めました。松本先生の記述の解法で解くのが非常に楽しく、毎回パズルを解いている感覚で最初から苦手意識はありませんでした。指導に従って 2 回以上間違えたポイントをノートにストックしていき、答練・模試を受ける直前に目を通してミスをなくすように努めました。使っていて気分が上がる書きやすいペンの選定をし、時間を測って高速で書く練習も何度もやりました。基礎講座内で

扱った問題を直前期に再度解き直し、特に不安の残る問題はさらに解き直しをしました。答練・模試の問題は解き直しせずに間違えたポイントのみ復習しました。

合格までの道のり

大変お恥ずかしい話ですが、途中まで「スケジュールを立てて一日のノルマを決める」ことをやっていませんでした。ある時にチューターの方から「ところで一日にやるべきノルマはきちんと計画していますか？」と聞かれて、初めて行き当たりばったりで勉強していたことに気付いたのです。なんとこの時点で本試験半年前。この時にお勧めいただいた『手帳で夢をかなえる全技術』(高田晃 著)を読み自分の価値観の棚卸しをして、なぜ司法書士になりたいのか・どういう人生にしたいのかを掘り下げて初心を思い出しました。この時から一日のノルマを細かく設定するようにして、毎日学習が終わったら一日を振り返って日記を書き、出来たことにフォーカスしてとにかく自分を褒めるようにしました。翌日のスケジュールもこの時に細かく書き出してから机を離れるようにしました。ノルマを決めたら毎日やるべきことが明確なのであとはアクセルを踏めばいいだけという状態になり、また自分で立てたノルマが崩れるのが気持ち悪いのでどんなに疲れていても必ずやり遂げる習慣がつかしました。本試験半年前までは一日 3 時間位しか勉強していませんでしたが、ノルマを立てるようにしてからは毎日 8 ～ 10 時間はやれるようになりました。人が変わったように 5 分も無駄にすることなく一心不乱に勉強しました。マインドが変わり搭載しているエンジンが入れ替わったような感じでした。

夫が非常に協力的で、週末は子どもを連れ出したり家事育児を全て担ってくれたお陰で勉強に専念することができました。直前期までは家族との時間も大切にして、レジャーや旅行にも行きました。直前期は週末はほぼ勉強部屋にこもっていたので、1 歳の幼い我が子が扉を叩いて泣きながら私を呼ぶ声を聞いて、嗚咽しながら勉強していました。答練・模試に出かける朝も激しく泣かれると、自分は何をやっているのだろうと心がブレそうになることも何度もありました。だからこそ、この生活を何年も続けるわけにはいけないと腹を括っていました。髪を切っても点数にはならないので年明けから美容院には行かず、勉強の合間の休憩時間には司法書士関連の YouTube を見たり合格体験記を読んでストレス解消していました。また、日常で発生するタスクはなるべく即座に処理して、脳に未消化タスクの負担をかけないようにしました。元々体力がある方ではないので、勉強に余力を残すために家

事育児はなるべく体力をセーブして、部屋が散らかっていても勉強の後に片づけるようにしていました。

**本試験当日のこと**

お試し受験はしなかったのが初めての受験でしたが、会場である大学HPに載っている教室の写真から本番のイメージを何度もしていたので、当日教室に入っても動揺しませんでした。試験番号からおおよその自分の席の位置を想像して、本試験のシミュレーションをしていたので当日は既視感がある感じでした。「これから始まる試験でついに司法書士になる…今日で受験生活が終わるんだ!」という高揚感に包まれていました。過去の合格体験記で読んだ「試験開始直前に年度別の過去問を数問解いて脳をアイドリング状態にしておく」というのを参考に答練・模試でもやっていたので、本試験でも同様にやりました。午前は出だしの民法親族法で判断に迷う問が続きましたが、時間に余裕があるので分からないところは後で戻って検討すればいいやと思いながら淡々と解き進めました。午後択一はとにかくスピード重視で飛ばしました。解く順番は先生の指示通りにし、50分で択一を解き終わりました。不動産登記法の記述で時間を費やしましたが、時間に余裕があったので1時間10分かかけました。15時から商業登記法に着手して、残り5分でマークミスや名前の記載漏れがないかの確認をして終了しました。解散の指示が出た後にそのまま席で記述の再現答案を作成して、心地よい解放感に包まれながら帰路につきました。当日中に自己採点をし、午前31問・午後29問の結果でした。最初から最後までとてもエキサイティングで、自分の力を出し切ることができたとても楽しい一日でした。

**最後に**

不思議なことに、受験すると決めてからずっと受かる未来しか想像できませんでした。勉強が大幅に遅れている時でさえも「最後に帳尻を合わせれば間に合うから大丈夫」という謎の自信がありました。本試験後も合格を確信していたので不安になることはありませんでした。心身が元に戻っていない産後に幼い子どもを抱えながら挑むには一見無謀かと思われませんが、状況など関係なくやるかやらないかに尽きると思います。この試験は勉強の積み重ねはもちろんですが、メンタルで勝負が決まります。次の試験で必ず合格すると決めること、司法書士になる覚悟を決めることが何より大切だと強く感じます。しかし最初から最後まで鋼のメンタルを保ち続けることは難しいので、気持ちが弱くなった時に相談できる人や気持ちを立て直せるツール（本や動画など）を用意できるとい

いと思います。私は家族、松本先生、チューターの方、受験生仲間の励ましがなければ挫折していたと思います。

最短で合格できたのは、必要な『勉強量×戦略×情報』のうち、戦略と情報を講座にお任せできたことが大きいです。また家族のサポートが不可欠なので、協力をしてもらうためにも日頃から円滑な関係を築くことが大切です。合格発表は家族全員で見に行き、番号を見つけて抱き合って泣きました。家族一丸となって努力した結果が出た瞬間でした。

ベクトルを間違えずに受かるための勉強を続けられればゴールに到達できます。自分を信じて適宜軌道修正を重ねながら、夢に向かって全力で走り抜けてください。



令和 5 年度合格者 Y.Tさん  
受験回数 1 回

### はじめに

私が司法書士試験の勉強を始めたきっかけはごく単純なものでした。社会人になり、ある程度落ち着いた段階で「何か勉強がしたい」と思ったことです。大学院への進学、簿記や USCPA など取得する。様々な選択肢がある中で、社会人としての自身の付加価値を高めることができるもの考えた時に、どうせなら難関と呼ばれる国家資格にトライしようと思いました。大した下調べをせずに、難関国家資格である司法書士試験を選びました。非法学部出身であり、宅建や行政書士の資格も保有していないのにも関わらず、いきなり司法書士試験を受験するという大胆な決断ができたのは、この試験についてあまり知らなかったからだったと思います。2021 年 10 月の末にリアリスティック受講生になり、私の受験生活が幕を開けました。

### 私のとった勉強方法

私はリアリスティック基礎講座の 20 ヶ月コース（現在のロングスタディコース）2023 年合格目標を受講しました。週に 2 回授業を受ける受講スタイルで、フルタイム兼業受験生の私にとっては 1 番合っていたと思います。授業 1 コマを試聴し、出された課題をこなすのに合計 7 時間要します。それを週に 2 回行っていたので授業とその課題に当てる時間は週に 14 時間、それ以外の時間は追っかけ復習に費やしていました。週に平均で 30 時間から 40 時間程度勉強できていたかと思います。月の勉強時間は 150 時間から 170 時間程度でした。仕事があり、1 日 30 分しか勉強できない日もありましたが、必ず週のどこかで帳尻合わせをし、週の勉強時間に波を作らないような工夫を行っていました。

### 私のとった勉強方法(択一編)

私の択一式の勉強方法は、テキストが中心でした。直前期までの期間は知識を取りこぼさないように

時間をかけて、丁寧にアウトプットしながら、テキストを回していました。直前期に入るまでに全科目の 8 割は記憶し終えていることを目標としていました。

また、テキストを 3 回程度回したタイミングで辰巳の択一アプリも勉強に取り入れていました。択一アプリを活用した理由は 2 点あります。1 つめに「問われる知識の角度の確認」2 つめに「反射神経を養う」ことです。テキストに記載されている知識を言葉を変えて問われた場合でも、分かるように練習するためには最適のツールでした。また、問題のフレーズを見た時にすぐに答えを想起できる反射神経を養うことができたと思います。

勉強用の iPad を持っていたので、アプリを移動中や仕事の休憩時間など隙間時間に活用していました。

直前期に関しては、とにかくスピードを重視していました。司法書士試験はタイムアタックな試験なので、読むスピードや書くスピードは常に意識した方がよいと思います。直前期は主要 4 科目に関してはテキストを 15 回、マイナー科目に関しては 10 回程度回していました。過去問も主要 4 科目は 5 回、マイナー科目は 10 回ほど回しました。直前期にもなると、会社法・商業登記法のテキストは 2 冊を 9 時間で回せるようになっていました。

また、通勤時間や支度をしている時間、食事の時間に関しては不動産登記法及び会社法・商業登記法の授業を 2 倍速で聞いていました。食事をしている時間や通勤時間などの細切れの時間は目を休め、音声学習を行うことで、身体への負担を考慮していました。

### (記述編)

択一は同じテキストをとにかく繰り返し、知識の精度を上げることが目的だと思いますが、記述は野球のバッターと同じで、どんな変化球が飛んできても対応できる力を身につけなければいけません。そ

の為、私は同じ問題を繰り返し解くよりかは、より多くの記述の問題に触れることを戦略として打ち立てました。もちろん、リアリスティックの記述の授業で扱う問題は 3 周はしました。それ以外にも記述の過去問、答練、市販の問題集、模試などをかき集め、60 パターン以上の問題に触れました。

また記述試験における思考パターンや、問題のパターン、ミスしやすい箇所をエクセルにまとめてストックしていました。そのエクセルのシートは答練や模試の前に 20 分程度かけて見直していました。エクセルでまとめていたのは、アップデートしやすい為です。

### 模試や答練の活用

模試は直前期に 3.5 回、答練は全て会場受験をしました。(1 回だけ午後のみ会場受験をしたので、それを 0.5 回とカウントしています) 模試に関しては全予備校の模試を合計 8 回分申し込み、どれを受けるかは直前に決めようと思っていました。予備校ごとに模試は傾向があるので、偏りをなくしたかった為です。また、直前期になってみないと「演習不足」なのか「インプット不足」なのかが分からなかったので、リスクヘッジの為にも全て申し込みました。答練は辰巳の答練を毎週会場受験していました。答練はペースメーカーになるための受講をお勧めします。

模試や答練はフィジカル的にもきつく、受験生の勉強時間が相対的に下がる日だと思います。私は人が勉強していないタイミングで戦力を全投下させる戦略だった為、答練や模試の日こそ人より多く勉強しようと思っていました。答練・模試の日は朝 4 時に起床し、7 時前には会場近くのカフェなどで苦手な科目のテキストを回していました。毎回模試や答練では A 判定を出そうと思い、全力で挑んでました。そのおかげか、全ての模試と答練で A 判定を出すことができていました。

また、模試や答練ではありとあらゆるシチュエーションを想定し、本試験でどんなイレギュラーが起きても対応できる力を養うことを意識していました。

### 受験期の心境の変化

受験期初期、私は見切り発車した自分自身に苛立っていました。働きながら月 150 時間以上の勉強時間を確保することの難しさ、プライベートでは小さな諦めを繰り返す毎日にうんざりでした。調べれば調べるほど、司法書士試験の難しさを突きつけられる情報が目につき、1 万時間勉強した、合格まで 10

年かかった、人生を無駄にした。様々な声に、泣き出したくなるような焦燥感を感じ、その現実から逃げ出したいと何度も思いました。それでも、勉強を続ける事ができたのは、紛れもなく意地とプライドだったと思います。自身の誇りを絶対に失っては行けないと、がむしやりに勉強していました。

受験期中盤、働きながら勉強することが私のライフスタイルとして確立していました。仕事で辛い思いをした日も、プライベートで気が滅入りそうな出来事があった夜も、1 日も欠かさず勉強するようにしていました。もはや、私にとって勉強は仕事の一つでした。義務的にただ淡々とこなすことが出来ていました。それでも、「疲れた」「眠りたい」その感情を押し殺して机に向かうのは、中々に大変でした。眠い日はキンキンに冷えた水を浴びて目を覚ましていました。目を覚ますために、コーヒーを 1 リットル飲んだ日もあります。この時期は本当に毎日が泥臭かったです。

受験期終盤、20 ヶ月コースの直前期は 1 月 1 日から始まります。6 ヶ月もある長い長い直前期が 2023 年の年明けと共に始まりました。私は 12 月 31 日の夜は「禊」として 11 時間家から出ずに勉強をし、年越しは憲法の統治の条文とともに迎えました。年越し蕎麦もコンビニで買ったものを 1 人で食べました。あえて自分を孤独に追い込み、「ここまでしたんだ、絶対に 6 ヶ月後の試験を射止めてやる」という強い気持ちを持ちました。

直前期、強烈に意識していたことがあります。それは、「全国の受験生ランキングで自分の立ち位置を意識し、常に上位を狙い続ける」ことです。模試や答練の順位とはまた別です。毎晩、寝る前に今日の勉強内容や時間、効率性を振り返り、自分自身の全国順位を意識するようにしていました。勉強がうまく行った日は上位に食い込めますが、勉強時間が少なかったり、非効率的な勉強を行なった日には順位は急降下。順位が急降下した日の後には、順位を 1 位でも上にあげようと巻き返しを図っていました。少しでも休めば、100 人くらいに追い越されてしまう。この考え方は時には自分自身を追い詰めるかもしれませんが、意識することで毎日を「生き切る」ことができたと思います。

直前期は毎日フルマラソンを全力ダッシュしている感覚に近かったです。

### 戦場を徹底的に分析

試験本番、私は東京受験ではなく地方受験でした。2022 年のお試し受験は東京会場での受験でしたが、机の狭さと人の多さ、トイレの混み具合に驚きまし



た。実力を最大限に発揮する為には環境的要因は無視できないので、地方受験を決めました。2022 年の受験地一覧リストを片手に、さまざまな会場を下調べし、ホテルが試験会場になっている東海地方を戦いの場に決めました。ホテルが試験会場であれば、そのホテルに宿泊し、昼休みは自室に戻る作戦です。私は、試験会場のホテルに事情を説明し、試験会場から 1 番すぐに戻れる部屋を 5 泊抑えました。もちろん、最後の追い込みの 5 日間を過ごす場所なので日当たりや勉強机の広さなども考慮し、部屋を取りました。そして春には会場に下調べをしに行き、会場を見てそこからトイレまでの近さや、トイレの数、自室に戻るときの動線も確認しました。本当は、本試験のリハーサルも行いたかったのですが、ホテルに問い合わせたところ会場の貸切には莫大な費用がかかる為、諦めました。

試験本番

本試験当日は、すっきりとした朝を迎えることができました。会場入りした 5 日前から睡眠コントロールを行い、毎日同じ時間に起き、同じ時間に寝るようにしていました。最後の 1 週間は細かいスケジュールリングをしていました。前日は、苦手な記述の題材を 3 本、392 条 2 項の計算問題、遺留分の計算問題、会社法令和元年の改正部分を確認、申請例の雛形の確認、出題予想論点の冊子の確認、最後に全科目テキストを速読で読み返しました。前日は深夜 23 時にはベッドに入り、朝 7 時に起床。朝は午前科目の最後のインプットを行い会場に向かいました。模試や答練の日の朝は必ず自分自身のアドレナリンが出る音楽を聞いていました。本試験当日も、いつも通り音楽を聴きテンションをあげて会場入りすることができました。

午前の部は 2 時間あり、時間的余裕もあるので 3 回見直しをしていつも通り終えることができました。

午前の部の終了後、すぐに自室に戻りお風呂に入りました。お気に入りの入浴剤を買っていたので入浴剤を入れ、15 分程度疲れを癒していました。そして、昼ごはんを食べながら民事訴訟法のテキストを確認し、最後に蒸気でアイマスクをしながら 20 分程度の仮眠を取りました。午前の部の疲れをリセットできたこの昼休みルーティンは本当に最高の選択でした。午後の部、今年は記述が多かったため、商業登記法記述に入る段階で 50 分しか残されていませんでした。模試や答練でイメージトレーニングをしていたとはいえ、かなり焦っていました。択一の手応えも大してなかったため、試験中「不合格

」の 3 文字が頭に浮かんでいました。それでも何とか諦めずに書き切ることができました。試験の終了後は満身創痍。机からしばらくの間立ち上がることができませんでした。

後進へのアドバイス

この試験はネットの情報にあるような「魔物のように難しい試験」では決してありません。正しい勉強方法、そして正しい戦略を立てれば最短合格することができます。自身を正しく分析し、どの方法がこの試験を倒すための最適解かを導き出せば、あとは走るのみです。多くの方は一人で勉強されていることと思います。全国には皆さんと同じように泥水を吸いながらも、必死に走る戦友がいます。苦しい時に、グッと堪えて前に進む力こそが底力であり、受験生としての強さです。最後まで心を強く持ち、合格まで走り抜けてください。

最後に

司法書士試験 20 ヶ月を振り返ると人生で 1 番燃えた期間だったと思います。兼業で受験生をやっていると、仕事で勉強時間が思うように確保できなかったり、様々な外的要因に揺さぶられることが多くあり、もどかしい気持ちに何度もなりました。それでも、私はもう一度受験をするなら兼業フルタイムでの受験を決断すると思います。なぜなら、司法書士資格以上のものを得られた期間だったからです。自己管理能力、忍耐力、なんとか形にする力。これらの経験は今後の自分の人生の軸となるような経験でした。また、司法書士試験を通じて、バックグラウンドの異なる素敵な仲間に出会えたことも人生の財産です。最後に、松本先生をはじめとする辰巳法律研究所の皆様に感謝の気持ちを申し上げます。通信での受講ではありましたが、とても手厚いサポートをして頂きました。辰巳を選んだこと、リアリスティックの受講生になったことは、私がこれまでの人生でした最高の決断でした。私を合格に導いてくださり、本当にありがとうございました。



合格者の  
**声**  
週に6日働きながらの挑戦で  
一発合格！



令和 5 年度合格者 **Y. Kさん**  
受験回数 1 回

はじめに

2021 年 10 月下旬、ひょんなことから叔父の事務所を継ぐことになり、司法書士になることにしました。司法書士になることを決めた次の日には、辰巳法律研究所の講座を申し込んでいました。これまで塾や予備校を利用したことがなかったので、独学で目指すことも考えましたが、とにかく時間がなかったのと、一回で決めたかったので予備校を利用することにしました。リアリスティック一発合格松本基礎講座（以下、「リアリ」といいます。）にしたのは、YouTube で公開されている動画を視聴して、講師と同じようにテキストに書き込みをする講義形式が自分に合っていると思ったからです。時間的な理由で、20 カ月合格コース（現在は、「ロングスタディコース」に変更されています。）にしました。週 6 で働きながらの挑戦だったので、同じように働きながら司法書士を目指す方の参考になれば幸いです。

私のとった勉強方法

まずは、どうすれば合格できるかを明確にすることになりました。結論から言うと、択一で午前・午後とそれぞれ 30 問正解し、記述で基準点を超えることができれば、高い確率で合格できます。ここでは、択一で各 30 問、記述で基準点を超えるために私がとった勉強方法について、択一对策と記述対策に分けて、具体的に書いていきます。

択一对策

択一对策としては、テキストと過去問に取り組みました。テキストは赤と緑の知識を全てアウトプットできるようにすることを目標とし、過去問は全ての肢を理由付きで正誤判断できるようになることを目標としました。私は講義を三分割して、1.5 倍速で視聴することにより、仕事のある日（月～土）に 2 コマを消化できるように計画を立てました。帰宅した後、22 時からパソコンの前でテキストに線を引き、翌朝 5 時

に起きてから 6 時に家を出るまでの時間を復習に当てました。この時点では、80%理解できればいいくらいのつもりでした。何回もくり返す内に 100%に近づけていけばいいと考えていたからです。日曜日は、その週の講義で指定された過去問を解き、テキストを復習しました。講座専用ブログがあり、過去問の根拠がテキストの何ページに記載されているのかが、全て示されています。スマホでブログのページを開いたまま、上から順番に解いてはテキストの該当部分に戻って、というかたちで 2 コマ分の過去問を解きました。このとき、必ず時間を計るようにしました。私は問題を解いた後、気になるところをすぐに確認したかったので、一問ずつ答え合わせをしました。また、本試験を意識して、少ない肢で正解を出せるようにしました。テキストに関しては、なるべくアウトプットできるように意識しましたが、思い出せないところはあまり時間を掛けず、最後まで終わらせることを優先して取り組みました。ただし、緑の知識だけは真っ先に暗記しました。出題頻度を表すランクについては、D ランクはさすがに捨てましたが、C ランクは普通に記憶するようにしました。他の教材に手を広げない代わりに、テキストだけは完璧にしようと思ったからです。

直前期には、過去問を 2.5 周、テキストを 10 周しました。毎朝 4 時に起きて過去問を解き、それ以外の時間はテキストを常に近くに置いてアウトプットしました。過去問を解くときは、理由付きで正誤判断できるか確かめました。時間は計らず、テキストにも戻りませんでした。理由付きで判断できなかった肢を最後にもう一周して、最終的には全ての肢の理由がわかるようにしました。テキストは常に持ち歩き、通勤時間、食事中、外出先などあらゆる場所でいつでも開けるようにしました。思い出せないところに付箋を貼り、思い出せたら剥がしました。全部の付箋がなくなったのは、本試験の二日前でした。

記述対策

記述対策は、正直なところ、あまり重視していませ

んでした。解法を習得した上での話ですが、大きなミスをしなければ基準点を超えるのは難しくないと考えたからです。大きなミスとは、枠ズレや時間切れによる途中答案などのことです。大きなミスを引き起こすのは緊張や焦りであり、その原因は択一にあると思います。午前の出来が悪かった、午後に時間を使いすぎた、など。よって、択一对策を重視することになりました。

直前期には、講義で使用した問題を一回ずつ解き直しました。解法の確認と、自分が犯しやすいミス（会社法人等番号を書き忘れる、など）を明らかにしてチェックリストを作成し、本試験の昼休みに確認できるようにするためです。また、答練と模試で時間配分の練習をしました。

本試験

本試験の前日に帰宅したのは、22 時頃でした。前の日にテキストのアウトプットが完了していたこともあり、この日は初めて何もせず、23 時前にベッドに横になりました。それまでは毎日体力の限界まで勉強していたため、ベッドに入ると同時に眠っていたのですが、横になっても眠れないのは、本当に久しぶりのことでした。これまでやってきたことを思い返していると、自分が明日の試験を楽しみにしていることに気づきました。そして、本試験の当日。午前の部は予定通り、憲法から順に解いていきました。午前は全肢検討しました。民法で時間をとられましたが、それでも 40 分余ったので、ゆっくり見直しをすることができました。どれだけ考えても二択までしかいかない問題が 7 問ありましたが、半分くらいは合っているだろうと軽く考え、気にしていませんでした。途中、試験会場で停電があり、試験が約 40 分中断しました。停電は想定外でした。最悪の場合、試験が中止になる可能性もあると思っていたので、復旧したときは本当に安心しました。二回目の見直しが終わった後の 20 分間はやることがなく、目を閉じて体力を温存しました。午前の部が終わり、昼食をとりながら記述のチェックリストを見直して、午後の部に臨みました。この日は本当に調子が良く、択一が 50 分で終わりました。しかも、ほとんどの問題で自信をもって解答することができました。ところが、枠ズレをしないよう慎重になるあまり、不動産登記に時間を掛けすぎてしまいました。商業登記に移った時点で、残りは 60 分を切っていました。別紙の多さに圧倒されながらも、必死に手を動かしました。最後の欄を埋めてペンを置いたとき、試験終了の合図がありました。終わった後も、しばらく頭痛が収まりませんでした。

最後に

兼業受験生にとって、司法書士試験は時間との戦いでもあります。限られた時間の中で合格するには、効率のよい勉強法を選ぶことと学習対象を限定することが重要です。特別な事情がない限り、予備校を利用するのが得策だと思います。予備校選びについては、何が正解ということはないので、自分に合ったものを選べば良いと思いますが、個人的にはリアリがおすすめです。特別な才能もない私が、週 6 で働きながらも一回で合格できたのは、リアリのおかげに他なりません。もう一度ゼロから勉強するとしたら、間違いなくリアリを選びます。そして、今度こそ合格祝賀会に参加するのです（仕事で参加できませんでした…）。働きながらの挑戦は困難の連続で、挫けそうになることもあると思います。しかし、どんな困難に直面しても、絶対に合格するという強い思いがあれば、きっと乗り越えられるはずです。頑張ってください。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



令和 4 年度合格者 I. Hさん  
受験回数 1 回

## はじめに

自転車は用意します。しかし、それだけでは自分の脚で走っている他の受験生に負けてしまいます。漕いでください。

この言葉はガイダンスで松本講師が仰っていた言葉です。

私は受験勉強をしていた約 1 年間でできる限り全速全開で漕いでいました。何度もタイヤがパンクし、チェーンが外れた事もあります。そこで辞めるのも一つの選択肢。しかし、それでも立ち上がり最後まで諦めず漕ぎ続けた結果、今こうして合格体験記を執筆させていただいています。

よろしくお願いいたします。

私は大学 4 回生の時に就職活動をするか司法書士を目指すか悩み、結果として司法書士試験を受験する事に決断しました。

司法書士を目指し始めた理由としては、大学は法学部に入学したという事もあり、漠然と法律に興味を持ち始め、何か法律に携わる職に就きたいと思い調べていく中で、司法書士という資格を知り受験資格もなく、すぐに受験できるということだったので受験しようと決めました。

私はリアリスティック松本基礎講座が開講する2021年の5月頃から勉強を始め、2021年の7月にお試し受験を受け、2022年の本試験で合格できました。

## 私の取った勉強法

私が司法書士試験の受験を決めた時は大学在学中という事もあり、勉強時間は一般的に司法書士試験に必要な3000時間より多く勉強する時間を確保できる目処がありました。まず、2021年のお試し受験の段階で全科目戦えるよう5月から先に発送していただいたテキストを予習しながら勉強していました。

しかし、お試し受験では午後択一で基準点に届かず不合格と呆気ない結果に終わりました。

お試し受験後の2021年7月から大学卒業までは大

学の講義を受講しながら司法書士試験の勉強を継続し、大学卒業後から本試験の2022年7月までは専業受験生として勉強を継続していました。

私は人より多く勉強しなければ、人並みのレベルに到達できないタイプと学生時代に思い知っていたので、本試験までにテキスト50周、過去問20周前後読み、解いていました。テキスト50周といっても、全て読んでいるわけではなく見出し、小見出し、講義内で松本講師が下線を引いた箇所、表を読み、他の箇所は講義で扱った時以外は読むことはなかったです。テキストを50周も読んでいれば本試験でどのような問題が出ててもテキストに記載されている知識で有れば答えることができていたので、特に焦ることもなく本試験に挑むことができました。

また、私はリアリスティック基礎講座の他に模試や答練も受講させていただいていたので、直前期からは模試や答練で択一や記述の演習をしていました。直前期に大体自分がどのレベルにいるのか判断するにはいい材料であり、記述の添削により、具体的な記述の点数も把握できました。

## 勉強法(択一)(インプット)(アウトプット)

司法書士試験は民法、不動産登記法、会社法(商法)、商業登記法の主要4科目に加えて、民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、供託法、司法書士法、憲法、刑法のマイナー科目の計11科目が択一で出題され、膨大な量を暗記していく必要があります。特に不動産登記法や商業登記法は記述にも出題されるため、より対策する必要がありました。

リアリスティックの講座ではテキスト11冊に加え過去問16冊、記述の解法本2冊を勉強する必要があります。暗記する事項が沢山ありますがリアリスティックの講座を受講すると講座内で松本講師が語呂合わせやテキストに下線を引くといった暗記の補助となる工夫が沢山あり、実際暗記には思ったより苦労はしなかったと思います。

特にテキストに下線を引くといった工夫はとても

役に立ちました。記憶すべき箇所には赤、理由付けには青といった感じで下線を引いていくのですが、後に復習する際は赤の下線と青の下線を読むだけで理解が可能になるよう下線を引いていくので、下線を引かずにテキストを読んでいたお試し受験の前の段階より遥かに効率が上がりました。

また、過去問も非常に充実しており、令和、平成の肢以外にも昭和の肢も問題集に収録されていたので、本試験で過去問出題肢を失点する可能性が低くなり心強いです。受講生専用ブログでは過去問の肢がテキストのどのページに記載されているのか随時更新されていくので、過去問で間違えた箇所をテキストで探すといった手間なく過去問を解き続けるところが出来ました。

## 勉強法(記述)(インプット)(アウトプット)

記述が不安な方は多いと思います。私もそうでした。仮に択一が午前、午後双方で105点満点を取ったとしても記述を枠ズレして足切りにあえばその時点で不合格です。どれだけ対策していても、この枠ズレの恐怖は本試験の記述を解く時まで続くと思います。

枠ズレをしないためにも、記述の解法をマスターすることは必要ですので、私は松本講師の解法に従い、自己流をほとんど加えず完全コピーしていました。

私は模試を10個ほど受験しましたが枠ズレしたのは1回のみです。この1回は論点すらわからない問題でしたので、解法の問題というより、自分の知識不足で生じた枠ズレでしたので解法さえ身につけば枠ズレの可能性は限りなく低くなります。

しかし、枠ズレをしなかったとしても雛形を暗記していなければ話になりません。この対策は講座の特典である雛形シャドーイングで解決できます。毎日、ご飯を食べながら、お風呂に入りながらといった何かしながら雛形シャドーイングを聴くことによっていつのまにかテキストにある雛形は覚えられていますので雛形が覚えられないという不安は解消できます。

## 本試験当日

本試験当日は雨で7月にしては肌寒かったことを今でも記憶に残っています。また、本試験の受験会場はお試し受験の時と同じ会場で会場にたどり着けるのか。といった不安はなかったのは幸いでした。

私は本試験が始まるギリギリに会場に行き、2022年度受講生は無料で受講できた「Cランク判例・先例で帳尻合わせ講座」のレジュメを10分ほど確認して午前の部を受けました。模試と同様、憲法→民法→刑法→会社法(商法)の順番で解き、全肢検討して問題を解いていたので午前の部が終わった時点で33/35は

あると実感していました。結果34/35と自己予想と大差ない点数でしたので時間のある午前の部は全肢検討することによって大体自分の点数を把握しておけるので、全肢検討をおすすめします。

午後の部が始まる前に模試の記述でよく間違える論点(ex 所有権移転 or 持分移転 or 共有者全員持分全部移転)をまとめていたルーズリーフを眺めてサンドウィッチを食べていました。

そして午後の部が始まり、松本講師のおすすめの解き方である供託法から民事訴訟法に下がっていく順番で問題を解いていきました。

午後の部は択一35問、記述2題を3時間の中で解き終える必要があり時間に追われることが予想されるので択一は午前の部の解き方のように全肢検討はせず、軸となる解きやすい肢を判断し、組み合わせを使いながら解いていきましたが、令和4年の問題は比較的解きやすい問題が多かったおかげで35分前後で択一が解き終えました。記述には各1時間を予定し、不動産登記法→商業登記法の順で解いていきました。不動産登記法は珍しく不動産が4つ出てきたので少し驚きましたが、内容はそこまで複雑な問題ではありませんでした。枠ズレ論点も名義変更登記や数次保存といった論点で時間をかけ、落ち着いて考えれば比較的判断ができるような論点でしたので、択一で余った時間を存分に使い1時間10分程度で解き終えました。

最後に商業登記ですが、問1、問2のいつも通り株式会社の役員変更や株式関係の論点が出題され、想定内の問題でしたが、問3、問4は記述の過去問では出題されておらず、想定を超える合同会社の登記に関する問題でした。合同会社と見た瞬間、株式会社に組織変更する問題と思いきや、普通に合同会社の業務執行社員の変更登記等が問われて面食らいましたが、リアリスティックテキストには合同会社の登記記録や雛形が掲載されているため、焦る事なく、記憶を辿りながら、解いていきました。大体、商業登記は50分程度で解き終えたため、残った時間は択一のマークミス、雛形の漢字ミスの見直しをして過ごしました。

## 後進へのメッセージ

私がこの合格体験記を執筆しているのは11月中旬です。残り4ヶ月強で直前期、7ヶ月強で本試験の時期です。

まだ思うように勉強出来ていないという方も合格の可能性は十二分にあります。

そして、今の時期はインプットで毎日毎日テキストを読み、同じ日々の繰り返しで気が滅入る日も多いかと思います。しかし、インプットなくして司法書士試

験には到底合格は出来ません。合格者は全員この辛い期間を乗り越え、合格していると私は思っています。たくさんの事を犠牲にしてやっと合格が見えてくる試験に皆さんは挑戦しているということです。多少の知識と運だけでは到底合格までには辿り着けません。

人間は自分に都合の良い情報を鵜呑みにし、都合の悪い情報を排除する確証バイアスという特徴を持っています。

“運良く短期間で一発合格できた”という言葉の裏には短期間で私たちの想像を超える時間を勉強に費やし、全てを犠牲にした上で頭の良い方が必然的に合格している可能性があります。しかし、“運良く短期間で一発合格できた”という言葉を鵜呑みにして、数ヶ月で合格できるならまだ勉強しなくていいか。なんて考え勉強を疎かにすると普通に不合格になりますので、他人の合格体験記の都合のいい部分だけを鵜呑みにすることには注意が必要です。

最後にこの体験記を見てくださっている方の中には、司法書士試験の合格率や他資格との難易度の差、勉強時間等を調べ、来年度の合格を目指して既に勉強もたくさんいらっしゃるかと思います。おそらく、この試験に挑戦する事は人生の中でも大きな決断だったかと思います。

司法書士試験の受験をするという大きな決断をした過去の自分を裏切る事のないよう本試験までの残り時間、最大限勉強してください。皆さんの合格を心よりお祈りいたします。

## 最後に

末筆ではございますが、松本雅典講師、辰巳法律研究所のスタッフの方々、私を支え、応援してくれた家族、友人本当にありがとうございました。どれか一つでも欠けていたら合格はできなかったと思います。

拙い文章ではありますが、最後までお読みいただきありがとうございました。

合格者の体験はホームページや YouTube でもご覧いただけます。

リアリスティック・ホームページ



Y o u T u b e チャンネル

